

和洋建築請負業

材木商

能松本榮太郎

函館區東川町五十番地

和洋小間物其他以ろく大勉強

鐵道馬車

割引切符
月極切符

大賣捌所



千歲常太郎

函館區鶴岡町二十九番地

品質精良價格低廉

和洋小間物營業

函館區鶴岡町十二番地



池田喜代治

か
も
じ

製造販賣所

函館區相生町十六番地

ぎ

鈴村儀之助

函館區地藏町六十二番地

寅

旅館井桁屋

材木卸小賣店

土木建築請負業

函館區相生町六十二番地

東石塚彦四郎

電信零號

(イシ)

陶磁器
卸小賣商

函館區大町十八番地

△
藤井陶器店

電話(五二七)

各國產陶磁器卸商
和洋木箸 箸箱
仙臺名產埋木細工類

函館區大町三十五番地

関 太三郎

電信畧號(七キ)

弘法主治藥湯本店

函館區海岸町十八番地

齋藤多郎兵衛

和洋鐵物



重松支店

函館區末廣町十四番地



印判版木彫刻
朱肉黒肉販賣
引札名刺印刷

函館區末廣町(龜田屋通り)

池龜印舖

電話五四七番

●洋酒喰料喰器類 ●葉卷苘並紙卷苘
●流行珍柄羅紗地 ●洋小間物並メリ
ヤス類 ●護謨長短及子供靴

西島屋

洋物部
洋服部

電話二百五十四番

傘履物其他諸紙煙草類

函館區大黒町八十三番地

上

桐屋
第二支店

上田雅吉

和洋 酒類卸小賣 非常勉強販賣

函館區大黒町百一番地

六

成田商店

各產地直輸入

函館區末廣町

寺井陶器店

尾張燒
京都燒
淡路燒
信樂燒
出雲燒

美濃燒
九谷燒
錦燒
會津燒
諸國陶磁器類

產地特約

東京安田製釘所
米國最新式
內外金物商

函館區末廣町

寺井金物店

各產地直輸入

函館區末廣町

寺井漆器店

諸國漆器
白耳義國
硝子板各

石油直輸入販賣



扇印タンク石油
扇印日本石油

販賣元

函館區西濱町十三番地

淺野石油部函館出張所



函館炭商合資會社

函館港鶴岡町十六番地

電話六百五十五番

卸晒雜片
商館穀栗

久

小林喜一郎

函館區東川町百九番地

- 建、干、荷造、敷むしろ、苫、叭類
- 實子網、藁綱、畚、草鞋、薄べり
- 網羽繩、樽繩、土木、大間、中間繩
- 味噌、醬油、ノ胴、廉價販賣

函館港船場町



海陸物産
委託賣買

西村馬太郎商店

電話(二二二番)電略(〇ニシ)

海陸物産委託賣買
日清貿易品受託專業

函館港豊川町

森嘉美太

弊店米雜穀乾物肥料及粉類等委託賣
買取扱罷在候處今回一層御便利ヲ計
リ右三店ニ於テ互ニ氣脈ヲ通シ迅速
且ッ懇切ニ御取扱致候間倍舊御用向
被仰付度奉願上候

米穀乾物類
片栗及問屋
肥料粉類



構濱市花咲町一丁目

本

店

白井八郎兵衛
電話千四百四十六番



函館末廣町

笠川治助

發雷略號カサカワ
電話六百二十五番



小樽色内町

白井出張店

中野伊之助
電話四百三十一番

米穀雜貨片栗卸小賣商

函館區西川町六十九番地

南南場商店

米穀卸小賣商

函館區寶町二十六番地

上村木善司

電話零號(ムラキ)

海產物委託賣買商

函館區汐止町九番地

下木戸東藏

海陸物產軸木商

日本酒



販賣元

日本酒造火災保險株式會社代理店

函館區末廣町八十番地

河島谷商店

電話(二四〇)

食麵炮洋式菓子及
麵炮菓子製造 卸小賣

東洋堂岡部榮吉

函館區會所町五十三番地

吳服太物商

函館區鮭洞町五十二番地

余山本幸太郎

吳服太物商

函館區大町三十四番地

カ旭熊太郎

電話(一四四)
電信略號(アサヒ)

大日本帝國陸海軍
英獨兩國海軍食料品
賣込商

牛肉卸小賣

函館區東濱町四十五番地

森龜山田龜吉商店

電話(二一八番)

大日本帝國陸海軍
英國獨逸國海軍
御用達

食料品賣込商

土木建築請負業

函館區末廣町八番地

K 健全社兼村商店

新及 鮮牛 最良 牛乳 卸小 鶏肉 賣



能登川本店

電話六十二番

同 東濱町

能登川第一支店

電話六十一番

同 船見町

能登川第二支店

電話六九六番

樓上には輕便函館第一等飲食部を
設け安く甘い御厚評を蒙り居候

函館西川町

凍氷食鳥卸小賣

鶏ソツプ製造配達



藤井商店

函館區蓬萊町六番地

脚氣治療所

函館區惠比須町六十一番地

醫士 千葉勝景

硝子器物類
板硝子卸小賣

函館區惠比須町五十七番地

羽 安齋仁吉

洋燈硝子器
卸小賣
其他諸品

函館區寶町二十三番地

清 清水和作

強勉
理髮營業

函館區寶町二十三番地

幸床 金谷幸治郎

和洋塗物大勉強

●本堅地 ●膳碗 ●會席膳 ●建具 ●箱物 ●一閑張 ●諸看板金銀
 蒔繪 ●佛壇修繕其他ペンキ塗
 細工は粒々仕上の後にて精巧入念なるを御信認且賃銀低價出來期日正確なり前記
 の御用多少に不拘御申聞奉願候

寶町三十四番地

小山塗物店



改良 保險



和洋ゴム引雨合羽
製造卸小賣

今堀 彌平

函館區辨天町六八

粉類製造所

函館區遊園地前

名 熊谷藤助

久染工場

函館區西川町十四番地

徳永寅之助

電信零號(ヤマキウ)

萬籠製造所
地竹一手販賣

函館區鶴岡町七十番地

松井彌助

萬籠竹販賣
其他漁場用籠製造所

函館區豊川町二十三番地

佐々木秀槌

精實勉強

松岡印刷彫刻所

函館區會所町四十番地

傘履物和洋煙草類其他種々

函館區蓬萊町十九番地

桐屋第一支店

弊店製造ノ『つま皮』ハ堅牢ニシテ持久ニ耐ユ御試用ノ上御高評ヲ希フ

印刷彫刻所

篤實勉強期日迅速彫刻

入念諸印肉販賣

函館區鶴岡町四十八番地

鐵道馬車停車場前

一真堂 北村嘉一

洋傘靴製造販賣店

函館區鶴岡町二十九番地

交番所筋向角



能瀬源三郎

古洋傘及び靴ノ修繕ハ特ニ精々勉強可仕候間御用向被
仰付度願上候

入 公 高 等 毛 皮 賣 買

○松下商店は毛皮類を海外に直輸す故に他店に比し
高價に買入れ得るの便宜あり
○松下商店は海外僻遠の地に於て毛皮類を買入得る
の手續あり故に上等の毛皮を安價に販賣し得るの
便宜あり

○松下商店は製革及毛皮の染色裁縫細工に巧なる意
匠に富める職工數名あり故に製革並に毛皮の染色
裁縫を望まると方は弊店に依托せらるゝを便宜とす

函館區末廣町五十八番地(龜田屋小路角)

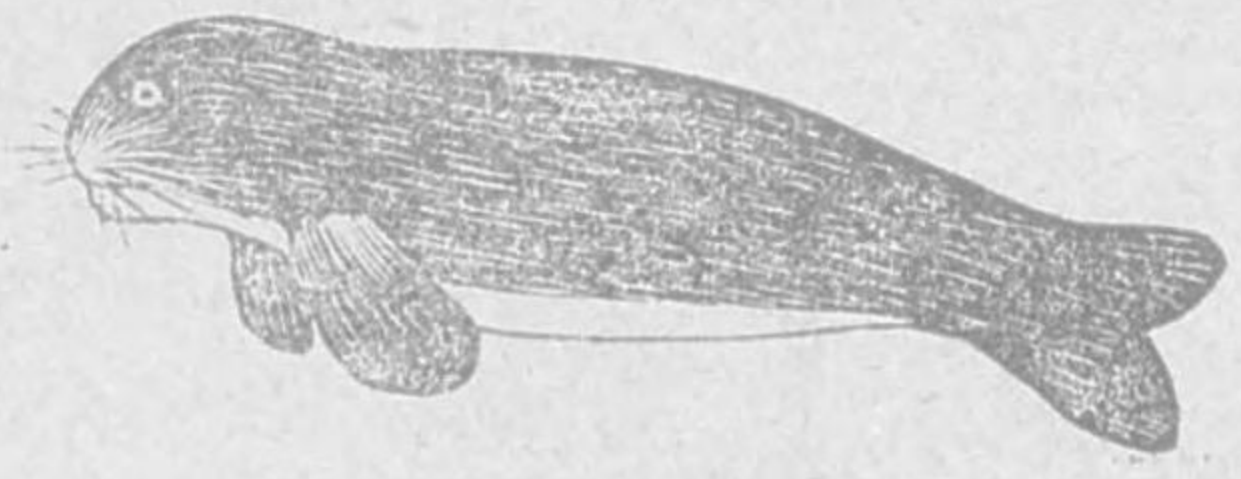
電話六三三番

松下熊槌商店

大日本北海元祖

オツセー一館本舗

商標



膾膾臍丸

性能

●元氣強壯
●精神活潑
●身體溫養

●血液進運
●健胃強肺
●強骨肥肉

●滋養機能
●腎精增補
●精虫造化

定價 七包入 金貳拾五錢
十五包入 金五拾錢
卅一包入 金壹圓

●主治 ●元氣虛弱 ●血液不全 ●子宮虛損 ●陰莖虛衰 ●五臟虛損 ●內部百損 ●身體虛弱 ●貧血虛勞 ●肺弱胃弱 ●腦神經病 ●遺精陰萎 ●不孕症 ●老人衰弱 ●小兒痲癩等用ふる時は益壽延年不老不死疑ひなし

元祖 本家 北海道函館港 千葉重吉謹製

酒類 醬油 味噌 和洋酒
瓶詰 罐詰 類大販賣所

函館區大町二十七番地

菊泉堂 奥山商店

電話番號(六一九番)

酒類製造販賣所

函館區相生町五十六番地

源 商店

內外各國
賣藥商

函館區地藏町六十六番地

金田一藥舖

電話(二百六十九番)

和漢洋藥商
諸名家賣藥商

衛生化粧用あれまらず本舖

庄 衛生堂 鎌田莊八

函館區末廣町八十五番地

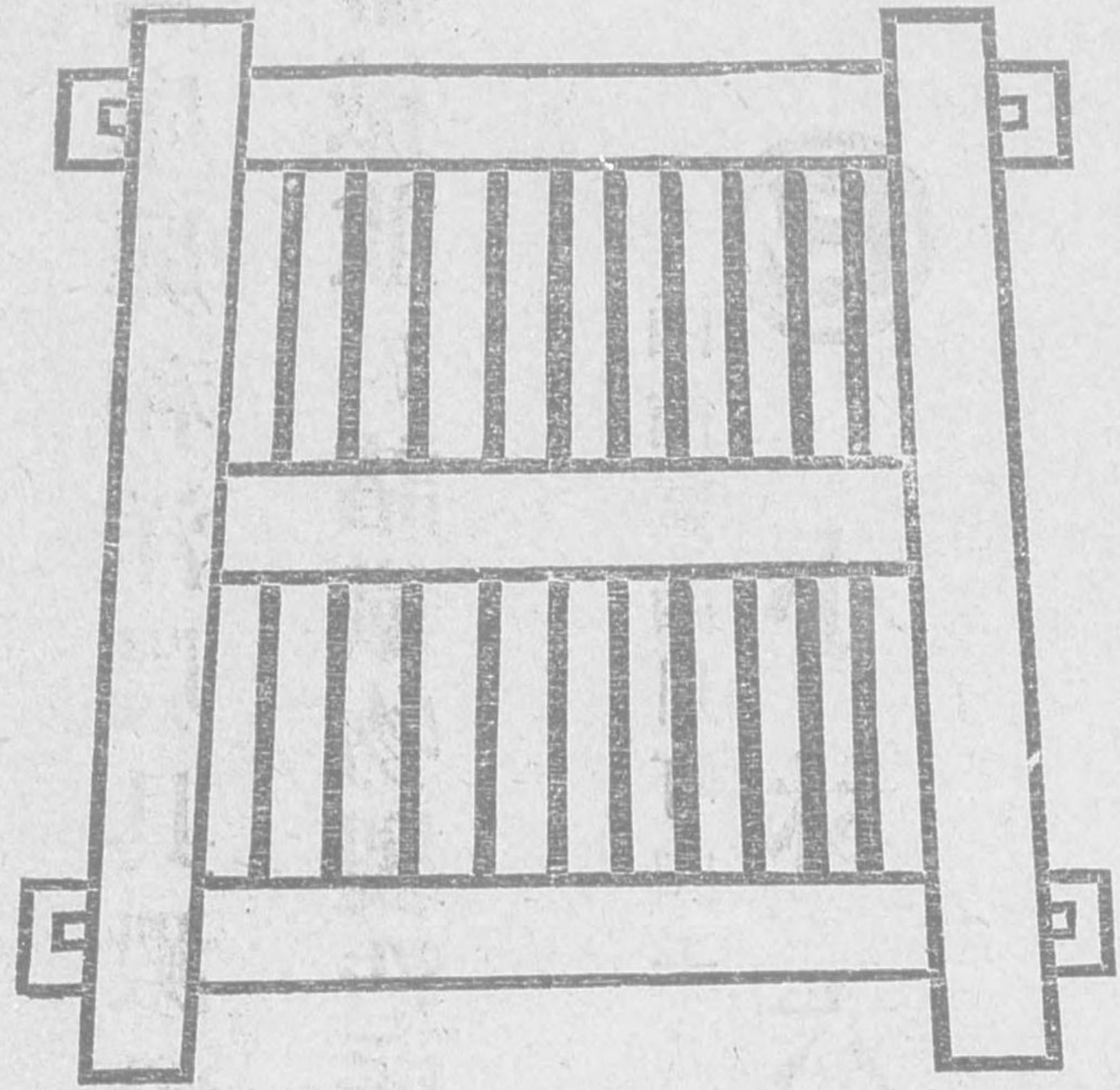
和漢洋藥商
諸名家賣藥商

函館區末廣町二十間坂角(電話二二三番)

香玉堂

收入印紙郵便切手賣捌所
外鐵道馬車切符大割引仕候

改良
ノ 粕 胴
漆 網 羽
製 造 販
賣 其 他
權 類 種
々



函館區鶴岡町十番地

梅 内 久 次 郎

大 造 船 場

函館區大森町三十番地

田 宮 松 太 郎

造船其他船具一切貴需に應じ迅速調製
可申上候

倉庫屏和洋農具澱粉
器械並に諸鐵物製造所



小林六三郎

函館區西川町四十八番地

萬鐵物類

器械製造所

松 大本松太郎

函館區真砂町五番地

諸車及
製造販賣所
萬金物類

函館區音羽町十四番地

◎太
太田忠吉

雜貨荒物農產種苗
和洋農具製造販賣

函館區若松町九番地

三
三田商店

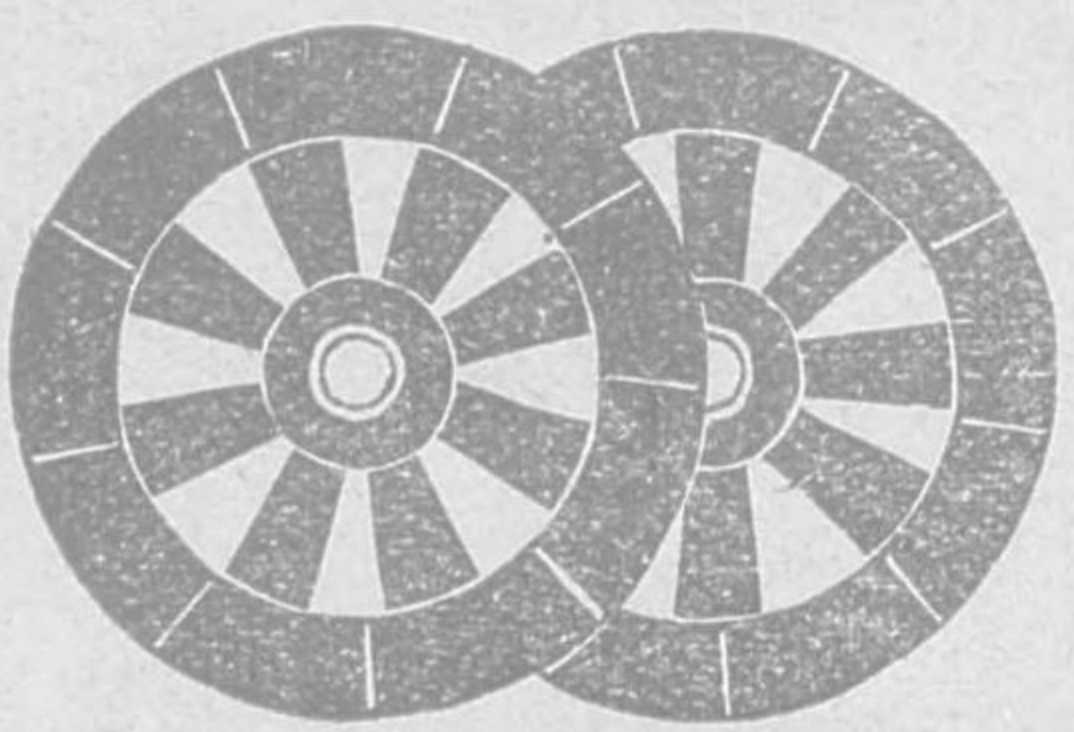
電信略號(ミタ)

萬鐵物諸器械製造所



樺木仁三郎

函館區東川町百六十七番地



諸車製造

大勉強

原料用材は吟味致し期日正確御用に相應
し可申候間陸續御用向仰付られんことを

函館區西川町六十一番地

高橋爲藏

和洋鑄物製造業

函館區東川町二百十八番地

倉中村藤吉

萬鐵物製造所

函館區豐川町三十五番地

寺 池田勝右衛門

諸車及萬金物製造所

函館區海岸町三十八番地

七 川口清三郎



萬鐵物
諸器械
製造所

函館區鶴岡町三十三番地

前澤健治郎

萬鐵物
鑄造物
製造所
販賣所

函館區東川町
二百八番地

星野熊五郎
工場

廣告

古本買賣

注意店則

ひやかし三十分限り

函館相生町
堀川學校隣

浪月堂

米穀商 外 染木 廣吉

函館區天神町

和洋酒類味淋
味噌醬油酢
食料罐詰類
和洋煙草
雜貨荒物

菊泉堂

大 松永商店

會所町四十六番地

鐵物製造 機械所

函館區鍛冶町

金 大和佐治郎

表具師 齊藤德藏

鴻雅堂

會所町四十七番地

時計商 能登谷金治

會所町四十六番地

諸椅子類 製造販賣 西洋家具

會所町四十八番地

三 畠山厚二

電話番號(九番)

米穀商 卸小賣 四ッ柳與三郎

相生町八十九番地

吳服太物 越後手織

函館大黒町卅四番地

德 吉井德三郎

宇治銘茶
茶器一式
和洋煙草
砂糖諸紙
石 驗
ランプ類
大黒町三十四番地
販 八 近江屋支店

吳服太物
洋織物
卸小賣
大黒町五拾三番地
五 成田吳服店
電話(六百三十四番)

吳服太物
越後手織
大黒町三十五番地
商 小泉商店

和洋酒類
煙草諸種
下駄類
日用荒物
雜貨小賣
大黒町七十一番地
市田龜次郎

運送業
大黒町三十三番地
八 勝 島田勝次郎

菓子類
卸小賣
大黒町四十八番地
三 西澤三五七

和洋菓子
製造所
大黒町四十六番地
舎 相澤兵作

洋燈硝子器製造販賣商

函館區大町六番地
大 佐野合名會社

酒問屋



小山 富藏

電話番號(百廿七番)
電信略號「コヤマ」

函館港大町十二番地

硫黃滿俺採掘販賣所

物産商



山本 巳之助

(電話二百十二番)

函館區大町二十番地

東都履物
傘右附屬
品一式卸
小賣商並
桐材賣買



常野 彌助

電話(三十五番)
電信略號「ツチヤ」

大町二十番地

洋品商
小間物



新谷 治六

大町二十一番地

内外各國藥種商



壽全堂 常野 壽次郎

電話番號(廿五番)
電信略號「タノイ」

函館區大町三十五番地

菓子
老舖

大町三十番地

旭屋 市田 勘治郎

電話番號(六四三番)

新意匠美味調製

すやりめ

製會商スヤリメ社會資合

時々流行ノ珍柄取揃へ
品質精良ゴム編の箇所伸びざ
るは弊店販賣品の特色なり
多少共御購求願上候



齋藤 伊藏

函館富岡町八番地
舊稅務署坂を上る右側

紙商



新 彌七郎

電話番號(二百二十四番)
電信略號「シン」又「ハシ」

函館大町三十八番地

洋服販賣商
毛織物類

函館區末廣町廿五番地



正 柳組

伊藤 藤雄 助

電話(五百十四番)

理髮業

函館區末廣町十六番地

藤井 恭三郎

薪新 西洋小間物
流行 帽子洋傘
リヤス靴メ
洋服及附屬
品洋服裁縫

大町四十五番地

美馬 太市

雜貨商
大町四十一番地
小島 豊吉

足袋商 三田 久兵衛

末廣町二十九番地

内外煙草
荒物雜貨
麻裏草履
問屋



函館區末廣町
黑田 支店

電話番號(七〇一)
發電略號「ククタ」

西洋御料理

玉突場 五島 軒

末廣町一番地
電話(二十二番)

醬油釀造
大町四十四番地
漁業 忠谷 久五郎

電話(五百六十二番)

洋服販賣商
毛織物類

函館區末廣町廿五番地



正 柳組

伊藤雄助

電話(五百十四番)

理髮業

函館區末廣町十六番地

藤井恭三郎

最新流行西洋小間物
帽子洋傘メ
リヤス靴
洋服及附屬
品洋服裁縫

大町四十五番地

美馬太市

雜貨商
大町四十一番地
小島豐吉

足袋商
三田久兵衛

末廣町二十九番地

内外煙草
荒物雜貨
麻裏草履
問屋

函館區末廣町



黑田支店

電話番號(七〇一)
發電略號「クロタ」

西洋御料理

玉突場 五島軒

末廣町一番地
電話(二十二番)

醬油釀造
大町四十四番地
忠谷久五郎

電話(五百六十二番)

誠實にし
て廉價な
るは弊舗
の特色な
り

諸學校制服御調進所

函館區末廣町三十二番地
島村洋服店
電話(六百四十番)

漁網商 又 泰 清 八

函館區末廣町三十四番地
電話番號(三三二)
電信略號「マター」

履物商 山 寺島喜左衛門

末廣町三十四番地

登錄商標 龜 津輕味噌
各國繩蔴類 卸商 龜 支店
各國鶏卵

電話(三百十一番)
發電略號「カ子カメ」
又「カメ」

御帛紗及
半襟並に
諸組み物
種々卸
小賣商

ゑり武
以 藤野 武平
函館區末廣町

和洋煙草各種
清明蠟特約大販賣
紙。筆。墨。線。香類

大勉強
常野 商店
末廣町(丸井隣)

和漢洋藥
品繪具染
革類諸名
家賣藥類

藥種商
み 濱野 熊次郎
末廣町卅八番地

馬具
製造
販賣
商店

末廣町七十八番地
松 山 吉三郎
電話(五百五十六番)

吳服商會
米谷與兵衛
末廣町七拾九番地

洋服各種
毛織物類

一傘正柳組
函館末廣町九拾番地
小島洋服店
電話(三十四番)

意大勉強

末廣町八十九番地
正柳組 島村洋服店
末廣町九十六番地
正柳組 丸萬洋服店

和筆墨
漢紙商

末廣町九十八番地
靜光室 植田清治
電話(二百二十五番)
電信略號(ウエタ)

醫科大學模範藥局專脩

藥劑師
調劑藥舖 師岡淳四郎
函館區末廣町九十九番地
地萬年堂隣り

和洋商會
鹽冶辨三郎
函館區末廣町百番地
海陸物產委託賣買
電信略號「エンヤ」

收入印紙
御菓菓子

鈴木商店


末廣町百十三番地


電話(百十六番)

足袋商  本間政次郎

函館區大町四十三番地

梅 惠比須町二十番地
月 天信 登山恒七
樓

雜貨商  向井嘉吉
荒物

神佛葬具一切
地藏町五十五番地
 葬具會社
調進所 若松町
出張店

吳服商 交梅本覺太郎
函館區鶴岡町九番地
其ノ他仕立物類廉價販賣

朝日 鶴岡町二十三番地
足袋 葵印 鹽谷榮三郎

烏賊製造所  石塚
鶴岡町二十六番地
釣針

吳服物商

鶴岡町四十一番地

林 榮

馬具製造卸小賣質商



野村 正之助

若松町五番地

和洋酒類商

若松町三十六番地

松山 喜市

電信略號「マツキ」

材木屋問

西濱町八番地

越郷 商店

内外各國藥種商

鶴岡町五十三番地

渡邊 芳造

雜貨物商

函館區若松町九番地

山本 富吉

海陸物產委託賣買

函館區西濱町

廻船問屋

合名會社

市中 商店

電話(四百十五番)

電信略號「ナカ」

又「ハ」

回漕問屋

仲濱町十五番地

吉田庄作回漕部

電話番號(二二二番)

電信略號「ヨシタ」

又「ヨ」

理髮業

東濱町二番地

藤原 寅吉

問回
屋 漕

東濱町十四番地

宮本 回漕店

電話(六二六番)
電信略號「ミヤ」

商 產 物

東濱町八番地

石垣 商店

電話(五十五番)

鍛冶町三十一番地

石垣 隈太郎

電話(五百四十九番)

海陸物產委託賣買

東濱町十五番地

蜜柑問屋
三忠 會社 函館 支店

電話(百二十八番)

和洋酒雜貨西洋小間物
和洋煙草類卸小賣商

村本 清三郎

東濱町四十二番地

海產商

東濱町十五番地

柳田 出張店

電話(四百五十六番)

辨天倉庫

活版石版木版印刷業

函館 活版所

船場町二十四番地

電話(三百三十三番)

荒物商
繩蔴商
善支店
岩見慶七
船場町二十四番地
電話(六百二十四番)

下駄商
履物商
住
須見治三郎
室町二十七番地角

金水販賣商
三松永勇吉
函館區西川町一番地
電話(二百四十四番)
電信略號「マツナカ」

和洋小間物
大
大瀧逸太郎
室町廿七番地(新藏前)
「庄内屋號」

改良劇場
大和座
清水久次郎
函館區室町廿七番地

和洋酒雜貨
實類和洋煙草類
室町二十七番地
商
加藤仁助

紋上繪神佛旗類
萬染物所
室町三十三番地
武田運吉
印半天手拭幕類

雜貨商
東川町百五十七番地
渡邊峰次郎
西川町六十六番地
商
渡邊峰次郎

吳服太物歐織物卸商

大町三十七番地

小野支店

電話(十五番)

洋式帳簿引

和洋書籍

函館

山崎製本所

一一七

各國銘酒諸罐詰
和洋煙草紙類
荒物各種販賣所
小間物

米光 靜一

東川町二百七番地

橫綱慈善牛乳
函館廣告屋

天下の號外屋牛乳店

東川町二百四十二番地

吳服商

磯部文吉

電話(十番)

東川町二百二十一番地

一一六

材木商

山

山谷孫吉

西濱町十二番地

發行書畫目錄

美術畫報

●並製洋紙刷一册定價金貳拾五錢... ●六ヶ月十二册前金貳圓八拾錢... ●一ヶ年二十四册前金五圓四拾錢... ●上製鳥の子紙刷(前金は並製倍額)一册金五拾錢... ●郵稅並製(二册に付)金壹錢上製(一册に付)金四錢

臨時美術畫報 第壹

●洋紙刷一册定價金六拾錢郵稅金四錢... ●上製鳥の子紙刷一册金壹圓郵稅金四錢... ●但し製本白茶太織表紙日本紙定期發行之畫報に紙數限ありて掲載し能はざるを以て臨時發刊せるものにして以下豫め時日を期し得ざるも發行の都度其前月畫報へ廣告すべし

美術評論

●一册定價金貳拾錢郵稅(一册に付)金貳錢

日本畫會 當撰百畫 一三三四回既刊

●一册菊判正價金貳圓五拾錢小包郵稅十里迄五錢百里迄八錢百里以上十六錢

●審查員筆(姓名略す)繪畫拾圖(當撰畫伯(姓名略す)筆壹百圖挿畫)アートタイプ(寫眞版)印刷

●森林太郎、久米桂一郎、岩村透、大村西崖同選

●洋畫 手引草 全一册

●四號活字半紙摺日本紙正價金七拾五錢●郵稅金四錢●紙數六十一枚挿畫十二圖

●アートタイプ寫眞

●風景 俗畫 全一册 拾貳枚綴小本

●定價彩色入金貳拾五錢●彩色無金貳拾錢郵稅(一册に付)金貳錢

●アートタイプ(寫眞)日光、箱根、奈良、成田、東京名所

●定價一枚金七錢郵稅五枚迄金貳錢

●アートタイプ(寫眞版)新畫

●丹青 新作

●(第一二册)定價金參拾五錢郵稅金貳錢(第二三册)定價金六拾五錢郵稅金四錢(第三一册)同斷

●日月の光 第一集

●定價金六拾錢郵稅金四錢

●日本畫洋畫彫刻類アートタイプ(寫眞版)印刷

●草雲畫譜 全一册 挿畫百幅七寸五分 種寸法 横五寸

●定價金參圓

●美術畫報一ヶ年豫約者に限り特に定價の二割を半ヶ年豫約者に定價の五分を減す

●アートタイプ(寫眞版)彫刻物

●彫塑生面 第一 小本一册

●定價金五拾五錢郵稅金四錢

●アートタイプ(寫眞版)彫刻物

●彫工會十五回競技會

●受賞圖錄 第一 一册

●定價金七拾五錢郵稅金六錢

田邊連舟翁序文

●八寸五分六寸三分●正價金五拾錢

●アートタイプ挿畫十四枚每圖考證を付綴す

●高麗美痕

●本書は米漢山吉盛義君多年朝鮮に在て同朝上下四千餘年の器物を蒐録せしものにして或は古陵墳より或は崩山鉄谷より幾多の辛酸と幾多の危険とを冒して蒐集せしものに屬す實に古代東洋美術の攻究に關し斯界の人に向て珍絶と呼はしむるものは蓋し此著ならん

●故小坂象堂傳

●象堂遺芳 全一册

●定價金參拾五錢郵稅金貳錢●日本紙刷●寫眞版畫數八枚

●宮川浮世繪卷 一卷 美術畫報同一の寫眞

●長春筆 定價金六拾錢郵稅金四錢●表裝綿綸子仕立卷軸●寫眞版畫數七枚

●詞書後光嚴院宸翰

●土佐天狗草紙 一卷 (圍城寺之卷)美術畫報同一の寫眞

●行光筆 定價金六拾錢郵稅金四錢●表裝紡績紋綸子仕立卷軸

●調書七枚寫眞版畫五枚

●高階行幸之繪卷 一卷 美術畫報同一の寫眞

●定價金四拾五錢郵稅金四錢●表裝紡績綸子仕立卷軸

●調書二枚●寫眞版畫四枚

●松村京都名所雙六一枚 寫眞一尺四寸五分

●吳春筆 定價金拾五錢郵稅三枚迄金貳錢

●古川百鶴百猿之圖一枚 繪畫寸法縱一尺四寸

●常信筆 橫一尺二寸五分

●定價金拾貳錢郵稅五枚迄金貳錢

●アートタイプ(寫眞版)新畫

●无聲會かたろく

●(第二二册)定價金六拾五錢郵稅金四錢●(第三一册)定價金六拾錢郵稅金四錢

●教科參考用地理歴史標本

●日本名勝圖譜

●第一期刊行之部 一帙 三十六枚入に

●寸法 豎九寸二分 幅一尺一寸九分

●一帙卅六枚正價金貳圓廿五錢 壹枚賣金七錢郵稅五

●枚迄貳錢外に簡代壹錢五厘

●一帙小包郵稅 十里迄金五錢百里迄金八錢百里外金拾六錢

●本圖譜は各地學校の御勸誘に基き小中學用教科書に依り編製し弊社特有の鮮明不變色なる寫眞版に刷成したる最も斬新に最も適切な寫眞圖にして地理上歴史上著明なる名勝故蹟等を網羅したるものなれば坐らにして山水の勝を探り風光の美を察するを得べく或は歴代興廢の趾英雄存亡の蹟を追究するに足らん即ち教授上唯一の標本たるは勿論又繪畫彫刻漆工陶治諸家の標本として座右實に缺くべからざる資料たらん

●東京市神田區連雀町十八番地

●發行所 函館 畫報社

●販賣所 港 工業館

●一二九

函館案内

函館案内

緒言

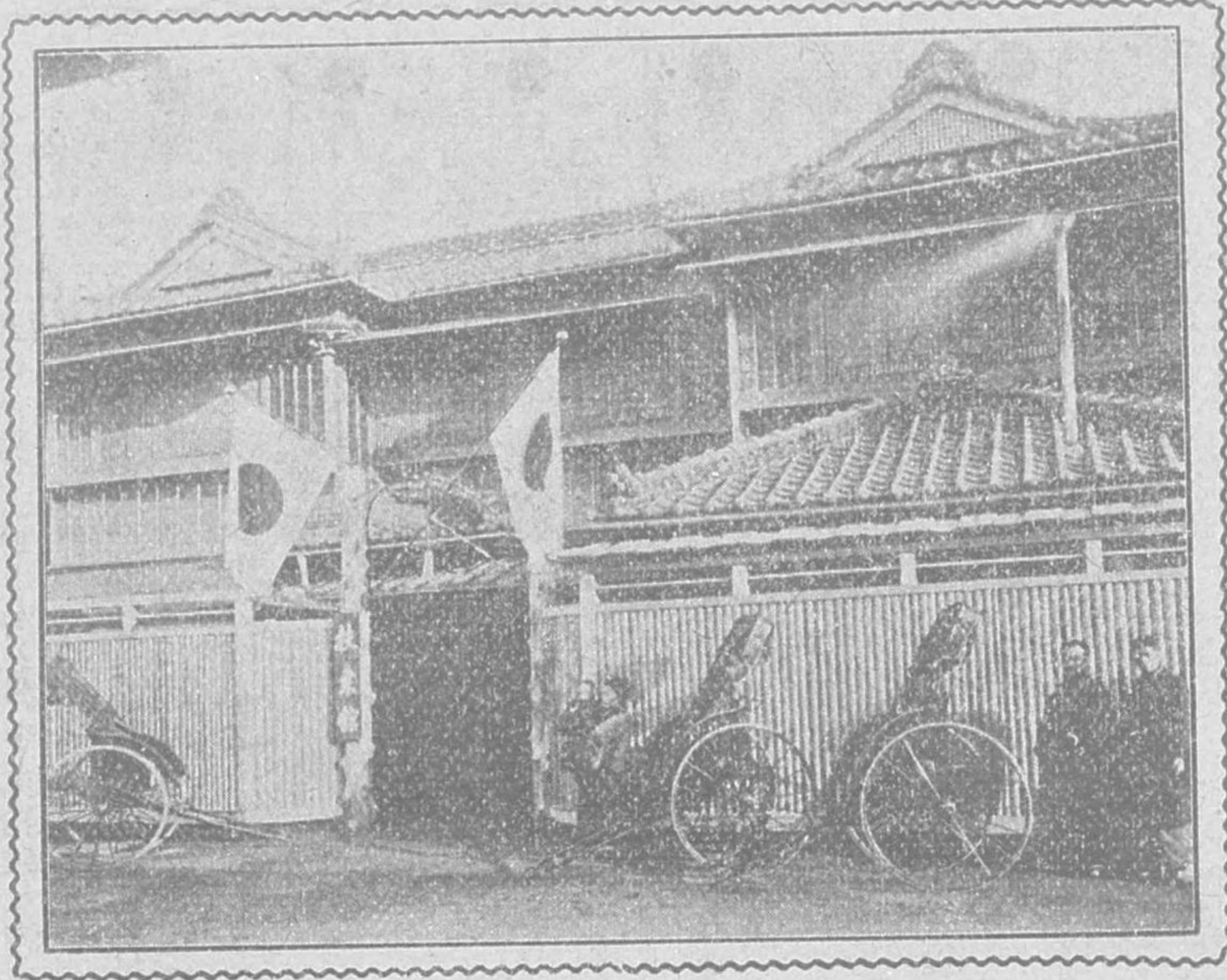
一此書題して函館案内と云ふ、人あり試みに著者に向ひ、既往の函館を案内せんとする乎、現在の函館を案内せんとする乎、抑も將た未來の函館を案内せんとする乎と問はば、著者は之に答へて現在の函館を案内し、施て將來の函館に及ぼすと言はむ

一然れども現在の函館を案内せんには既往の函館を説かざる可らず、故に先づ函館開闢の始めより開化の沿革を叙述し、終に將來の希望を告げんと欲するなり

一夫れ土地を開發するには其土地を紹介するを先と爲す、土地を紹介するには土地

緒言

一



FU-SŌ-KWAN

(Hotel),

No. 15, 3rd., St., Kobiki-chō, Kiō-bashi-ku, Tokio.

旅館

扶桑館

東京市橋區木挽町三丁目五十五番地

電話新橋四千七百七十九番

歌舞伎座横町 新橋停車場ヨリ三丁目

130

函館案内

函館案内

○緒言

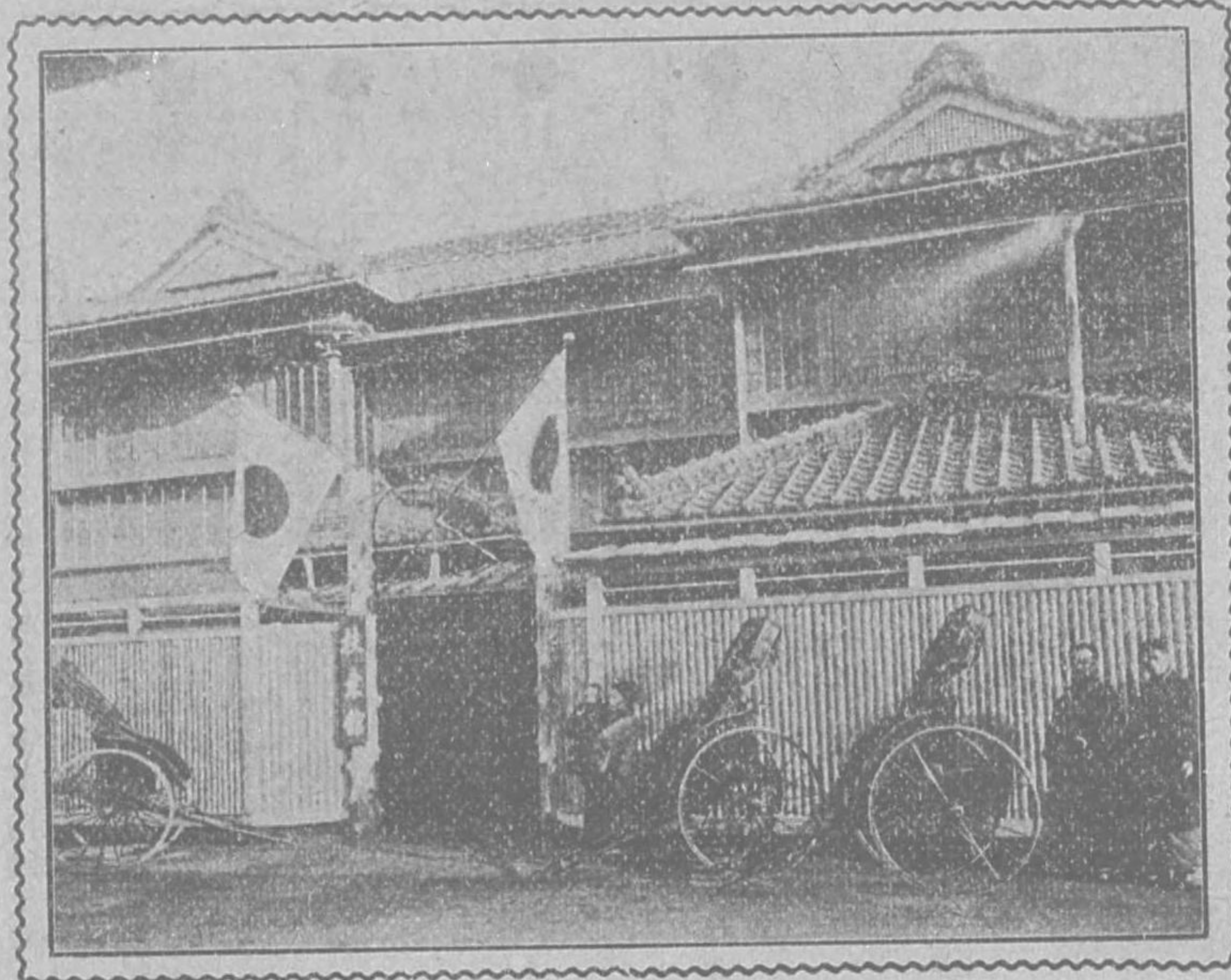
一此書題して函館案内と云ふ、人あり試みに著者に向ひ、既往の函館を案内せんとする乎、現在の函館を案内せんとする乎、抑も將來の函館を案内せんとする乎と問はば、著者は之に答へて現在の函館を案内し、施て將來の函館に及ぼすと言はむ

一然れども現在の函館を案内せんには既往の函館を説かざる可らず、故に先づ函館開闢の始めより開化の沿革を叙述し、終に將來の希望を告げんと欲するなり

一夫れ土地を開發するには其土地を紹介するを先と爲す、土地を紹介するには土地

緒言

一



FU-SŌ-KWAN

(Hotel),

No. 15, 3rd., St., Kobiki-chō, Kiō-bashi-ku, Tokio.

旅館

扶桑館

東京市京橋區木挽三丁目五十五番地

電話新橋四千七百七十九番

歌舞伎座横町 * 新橋停車場ヨリ三丁

1110

の價值を案内するに如くはなし、而して土地の價值を案内するには成るべく多くの人に傳ふべき方法に出でざる可らず、此方法としては函館案内記を出版するを以て捷徑とす、是れ即ち此書ある所以也

一 思ふに既往より現在に至る迄の函館は北海水産の豊饒と北門咽喉の要害とにより坐ながら金を儲け得たる天興の土地なりき、内地より入るもの、本道より出づるもの、人に貨物に函館を経ざるはなく、函館は只此人と貨物を吞吐して衣食し得たるに過ぎざりし也

一時勢の變遷と交通機關の設備とは漸次土地の有様を一變し、加ふるに比年水産の薄漁は茲に函館をして従來自活の道を失はしめんとすること莫き乎、是れ函館人の熟考を要する所、而して又函館を紹介するの必要を感ずる所以也

一 將來の函館を叙べんとするには著者大いに議論の記すべきもあり、されど限りある冊子は意の如くなる能はず、殊に此種の議論は本篇編纂の趣旨にあらざるを以て、只現實の儘を報じ、沿革の次第を叙するに止め置きたり

一 所載の目次を掲ぐれば次の如し、幸ひに此書の讀者をして、本篇の紹介により以て將來函館に對する企畫を按ずるの一助たらしめば著者の大幸之に過ぐるものはあらずと云爾

目次

○地理

巴灣の名稱△臥牛山の今昔△函館市街

一

○沿革

蝦夷時代△松前家時代△奉行時代△箱館府時代△開拓使時代△縣廳時代△道廳時代

二

○開化

五段落

四

○官衙

區役所△支廳△税關△水上警察△郵便電信局△裁判所

五

○學校

公立小學△各種學校△中學校

六

○病院

函館病院△私立病院△慈惠院

一七

○社寺

國幣中社外五社△稱名寺外九箇寺△會堂△教會

一八

○交通

陸路△海路

一九

○遊樂

公園地△谷地頭△新藏前△湯ノ川温泉△劇場及び寄席

二〇

○青樓

東西遊廓△各料理店

二三

○鐵道馬車

人情風俗

二四

○人情風俗

人情風俗

二六

○有名なる商店の案内

△東濱町	二七
△仲濱町	二八
△西濱町	三四
△幸町	三六
△辨天町	三六
△大町	三七
△末廣町	四一
△地藏町	四八
△豊川町	七六
△鶴岡町	八四
△若松町	八八
△海岸町	九二
△鮎洞町	九三
△富岡町	九四
△會所町	九五
△相生町	九六
△大黒町	一〇三
	一〇六

△青柳町	一〇八
△春日町	一〇九
△寶町	一〇九
△東川町	一一一
△西川町	一一一
△音羽町	一一八
△眞砂町	一二一
△大森町	一二一
△汐止町	一二二
△船場町	一二三
△惠比須町	一二五
△壽町	一二六
△谷地頭町	一三二
△龜田村	一三三
△蓬萊町	一三四
△蓬萊町	一三五

附東西遊廓及見番

○附 録

○全國汽車旅行其他必要の事項

△途中下車驛及切符通用期限△旅客携
 帶品一時預入れの手續△貨物速達便運
 送規定△鐵道にて貨物運送の手續大要
 △貨車借切並に割引賃金△旅客手荷物
 並に小荷物運賃

○内國郵便略則	五
○内國電信略則	七
○電話稅略則	七
○印紙稅略則	八
○小包郵便規則摘要	八

函館案内

● 地理

函館を案内するには先づ地理より始めざる可らず、天然自然の要害は如何に絶景の下に日本五港の價値を占むるかを看よ

▲巴灣の名稱 函館港を巴灣と云ふは皆人の知る所也、此名稱の起れる素より地形の然らしむる所、そも渡島の國たるや北海全道の南端に位し其地勢は黒岳の山脈より起りて東西二派に分れたり、東に亘るものは大河嶽となり恵山岬に至りて遙かに陸奥の尻矢崎と相對し、西は即ち知内岳となり東に折れて更に矢

地理

越岬を爲せり、又西に起むくものは白神崎にして陸奥の龍飛崎と相臨む、さて白神と恵山の中央より更に斜めに海中に斗出するものは是れ有名の函館山なり、以上の地勢彎曲海水を抱きて茲に函館港を作る、東西一里二十町五十八間、南北一里二十四町三十三間、灣形自然に巴狀を爲す、巴灣の名稱起れる所以なり

▲臥牛山の今昔 臥牛山とは即ち函館山を云ふ、形臥牛に似たるを以て此名あり高さ一千百五十七尺、港内水深く此山ありて四時共に激浪の憂ひを知らず、安全の點より言へば五港中第一の良港と稱せらる、然るに山は近年要塞砲壘を築かれ殆んど舊時の形を變じ、灣は泥沙堆積せしを以て先年空前の浚渫大工事

を起したるが今や功終へて完全の良灣となれ

▲函館市街 山に據り灣に沿ひて其地勢は丁字の形を爲せり、遠く望めば恰かも一大城廓の如く、其美景名状すべからざるものあり、市街の廣袤は東西一里二十六町餘、南北一里十一町餘あり、之を分ちて四十九箇町となす、其町名左の如し

富岡町、天神町、旅籠町、駒留町、船見町、鍛冶町、會所町、相生町、汐見町、曙町、壽町、臺町、山春泊町、春日町、青柳町、谷地頭町、鹽澗町、幸町、元町、住吉町、大黒町、辨天町、大町、西濱町、仲濱町、東濱町、船橋町、惠比須町、末廣町、蓬萊町、寶町、

地蔵町、鶴岡町、若松町、音羽町、高砂町、大繩町、海岸町、豊川町、眞砂町、東川町、西川町、大森町、汐止町、臺場町、入船町、帆影町、新濱町、仲町
但し函館區制施行以後龜田村の一部を加へて函館區に編入す

沿革

函館の沿革を記さむには蝦夷時代、松前家時代、奉行時代、箱館府時代、開拓使時代、縣廳時代、道廳時代の七段落となすこと何程の舊記に徴するも一軌に出づ、即ち左に順を逐ふて其大畧を叙述すべし

▲蝦夷時代 往古に於ける函館の歴史は漢乎として記録の徴すべきものなきが今日本紀に徴すれば人皇三十八代齋明天皇の御宇安倍比羅夫をして蝦夷地を征せしめ給ひ後方羊蹄に政所を置れたりとあり、此後方羊蹄こそ今の羊蹄獄と稱する本道第一の高山なれ、此頃は土人も多く住居したるが故に扱は政所を設けて彼等を制御したりしならん、夫より追々土人も減じ之を制御するものなかりしが人皇一百八代稱光天皇の御宇嘉吉年間下國藤太といへるもの渡島して松前家の所領たりし下國に居たりけるが、後寶徳三年武田信廣なるもの南部の蠣崎より渡り來つて下國を打亡ぼし天河(今の上磯郡に在り)と云へる所に住居を

定めぬ、是れが即ち全本島を支配せる松前家の祖先なり

▲松前家時代 松前家祖先渡道以來は我函館も亦其支配を受け來りし也、寶徳年中武田信廣等と共に渡島したる加賀守河野政通なる人此地に館(所謂陳屋の如きもの)を築きて之に據りしが、長祿年中蝦夷東部の夷人大に兵を擧げて來寇したるに加賀守は之と戦ひ利あらずして打死なしぬ、其後慶長年中龜田近傍の人民此地に移り來つて漁業を營なみ居りしが加賀守が築きたる館跡の形狀箱に似たるを以て函館と呼びしと云ふ

△案ずるに箱館は古昔の土言に「ウシヨケシ」と云へり、ウシは「ハウシヨ」の畧語に

沿 革
て入輪を意味し、ケシは末端と云へる義にて即ち入輪の端の意也此地の海岸彎曲せるを形容せしものならむ、後ウシヨケシを轉じて臼岸と稱したり

貞享年間蠣崎家（武田信廣南部の蠣崎より渡島に依て改姓せしならむ）の松前に移るに當り南部の人民此地に来るもの多し、爾來露西亞國屢々我が千島近海に出沒し擄捉、得撫等を侵して事體頗ぶる容易ならざることゝはなりぬ、されば徳川政府寛政十年御目附渡邊久藏、御使番大河内善兵衛、御勘定吟味役三橋藤右衛門を以て蝦夷巡視を命じ、同十二年より年々武器を廻送して第一に箱館に備たり、是に於て箱館を駐府となし當時龜田なる松

前家龜田奉行の住宅を修理せしめて之れに充つ△蝦夷問題は此の如く徳川政府の注目する所となり到底松前家の監督に一任すべからざる事となりければ内には江戸掛なるものを設けて蝦夷に關する事柄を管理し、外には漸次箱館に奉行を派するに至りしが是より本島に往來するもの益々多きを加へ來り、我が函館は之が中心の位置に立ちて愈々繁盛を増すととはなれり△享和二年御小納戸頭取戸川筑前守安倫、御目附羽太庄左衛門正義等蝦夷奉行を命ぜられ、同五月伊豆守信明朝臣より右兩人の役名は以來箱館奉行と稱ふべき旨を命ぜらる、抑も長祿元年武田信廣が蝦夷を統一して以來享和二年に至る三百三十年間東西蝦

夷地即ち北海道を支配したる領主を擧ぐれば
△長祿元年武田信廣 △明應三年五月信廣の子若狹守光廣 △永正十五年七月光廣の子若狹守義廣 △天文十四年八月義廣の子若狹守季廣 △天正十年季廣の三子伊豆守慶廣 △慶長五年慶廣の子若狹守盛廣 △元和三年盛廣の子志摩守公廣 △寛永十八年公廣の二子辨之助氏廣 △慶安元年氏廣の子志摩守高廣 △寛文五年高廣の子志摩守矩廣 △享保六年信廣六世の孫本廣の子志摩守邦廣 △寛保三年邦廣の子若狹守資廣 △明和二年資廣の子志摩守道廣 △寛政四年道廣の子若狹守章廣等
▲奉行時代 是より先寛政五年露船箱館及び

松前に入る、大目附石川將監、村上大學之と應接す、享和二年七月二十四日幕府は東蝦夷永久上地の旨を松前若狹守に通達せるが其達し狀は次の如し
蝦夷地の儀は前々より其方進退致し來り候處東蝦夷の方先達て當分御用地に相成候場所永々上地仰附られ西蝦夷の義は是迄の通り相心得仕置の儀は厚く心を用ひ候様仰出され其意を得らるべく候
是に於てか我箱館は三百年來の松前家支配を脱して幕府の直轄とはなれり
同三年春箱館役宅成る、惣構地坪數三千三十坪餘、建坪六百三十坪餘、箱館奉行之に居り松前家に代りて東蝦夷を支配することゝなり

ぬ△文化元年九月二十日備前守忠精朝臣より

下知ありて翌年左の制札を掲げたり

一異國人萬一來ることありと雖も交易は申す

に及ばず都て通路應對等堅く禁制の事

附たり若し疑はしき船等見掛候へば早々其

所の役所へ注進すべきは勿論差圖なくして

右體の船へ堅く乗り寄るべからざる事

一蝦夷人と相對の商賣は申すに及ばず總て蝦

夷地に於て私に產物商賣堅く禁止の事

一蝦夷人に對し非分の儀申し掛け或は產業の

妨げに相成候儀決して致す間敷事

一商人ども并に商船の類私に蝦夷地に入るべ

からざる事

一何船に限らず蝦夷地へ漂着の節は其處の役

所へ早々申出で差圖を受くべき事

右の條々相守るべく若し相背くに於ては嚴科

に行はるべき者也

又正徳年中宗教上に於ける事、船業上に於け

る事其外諸般の制札を箱館、鷺木、砂原、白尻、

龜田村、有川村、大野村、泉澤村、木古内村へ、

又右の高札を乙志村、尻岸村、小安村、當別村、

札川村、釜谷村、三石村、茂邊地村、富川村、三ッ

谷村、下湯川村、錢龜澤村、石崎村へ掲ぐ△文

化元年龜田村に萬年橋を造る、是れ龜田村の

因によりて萬年橋と名けしなりと、同二年大

に田畑を箱館近郷に開く、同三年十月五日箱

館辨天町河岸支店より出火し折節西北の風猛

威を逞ふし見るく同町表通り兩側内濶町ま

で延焼し山の上町に迄も及ぶ御役所坂下の總
門并に門番所高札場交代屋敷及び仕入物等入
れ置場の板藏二箇所、土藏一箇所類焼したる
が御役所并に役人の住居向き會所等は別條な
く市中にては寺院四箇の中實行寺、稱名寺、淨
玄寺及び町家大小三百十六戸を焼く、左れば
會所にては早速粥を煮類焼の老少に賑はせ
り又山ノ上町なる芝居を明けさせ彼等を立退
しめたるが人烟稀少の當時に在ては實に酸鼻
の極なる大火なりしと雖も既に同年間に在て
斯る市街を組織し芝居さへ設けありしは又以
て其盛況を思ふべし、此年始めて井戸を大町
に穿つ爾來外國船着りに東蝦夷地擇捉近海へ
來寇するを以て幕府は愈々其防備に怠らず内

地諸藩より續々人數を本島に送り、我箱館へ
は南部勢三百四十二人、佐竹勢五百九十一人
を置けり△文化四年十月箱館奉行所を松前に
移し松前奉行と改稱せり△文政四年四月に至
りて松前家復封せられ再び東西蝦夷地を管轄
す△安政元年再び松前奉行所を箱館に移し、
箱館地方亦た幕府の直轄となる△此歲北米の
水師提督彼理神奈川に來り箱館を開かんこと
を請ふ同年米國船當港に入り翌二年米佛土露
四國の軍艦相次で當港に入る△同三年函館大
に海嘯むき雷鳴る、四年五月新錢を鑄り箱館
通寶と稱し之を松前、箱館に行なふ△同六年
箱館を開き日本五港の一と爲す△同年砲臺を
辨天町に築き、五稜廓を龜田に築く△文久元

函館案内

年目附を當港に置く△此歳箱館醫學所成る、
 元治元年五稜廓落成し箱館奉行移りて事を執
 る△慶應二年幕府政權を奉還し維新の大業爰
 に成ると同時に皇風颯々として蝦夷の蠻俗を
 拂ひ、明德熙々として不毛の曠野を開き、實
 にありがたき明治の御代とぞ成りにける
 扱て享和二年松前家の支配を脱してより後幾
 變遷を経明治元年に至る六十一年間の北海道
 理事者を擧ぐれば次の如し

- △『箱館奉行』—戸川筑前守安倫、羽太安藝
- 守正養(享和二年)『松前奉行』—河尻肥後守
- 元春(文化四年)村垣淡路守貞行(文化六年)
- 荒尾但馬守成章(同九年)服部備後守後伊勢
- 守貞勝(同十年)本田淡路守繁文(同十二年)

夏目左近將監信平(同十四年)高橋越前守重
 監(文政三年)『松前家復封』—松前若狹守章
 廣(文政四年)章廣の子隆之助良廣(同十年)
 良廣の子志摩守昌廣(天保十年)章廣六子伊
 豆守崇廣(嘉永二年)『箱館奉行』—竹内下野
 守保徳、堀織部正利熙(安政元年)村垣淡路
 守範正(同二年)津田近江守正路(同五年)勝
 田伊賀守充満(萬延元年)糟屋筑後守義朋
 (文久元年)小出大和守秀實(同二年)奉行格
 新藤鉛藏方涼(同二年)奉行格橋本悌藏(元
 治元年)杉浦兵庫守勝誠(慶應二年)外國奉
 行兼勘定奉行栗本鯤(同三年)
 ▲箱館府時代 王政復古の大業成り明治元年
 四月十二日箱館裁判所を置き、軍防事務局都

函館案内

督嘉彰親王を總督に、清水谷公考、土井利恒
 を副總督に任じ、井上石見、岡本監輔、山東
 一朝、小野淳輔等に命じて事務を幹理せしめ
 しが、閏四月二十四日改めて箱館府を開き、
 清水谷公考を箱館府知事に任ず△同五月元箱
 館奉行杉浦兵庫守土地人民金穀圖書器械を收
 めて判事井上石見に致す
 八月徳川家脱走の徒榎本釜次郎を始め數百人
 我が箱館を侵して之に據る、市内の人心恟々
 として家屋の兵燹に罹るもの數多く市民僅か
 に身を以て箱館山に遁れたり、是が有名なる
 箱館戦争なりける、此折箱館府知事清水谷公
 考は青森に退がきたり
 同十一月箱館産物問屋仲買の名稱を改めて販

賣人と爲し大阪、兵庫、境、敦賀等に會所を設
 け之に依らずして直接販賣するを禁じたり△
 同二年五月官軍撃て徳川殘黨の亂を平らぐ、
 七月箱館府を廢して函館縣を置き、尋で開拓
 使に改められ鍋島直正之れが長官に任ぜらる
 ▲開拓使時代 明治二年八月始めて蝦夷を北
 海道と改稱せられ、全道を頒ちて十一國八十
 六郡と爲し、省府藩士族寺院の支配を定む△
 此月東久世通禧開拓使長官に任ぜられ、九月
 舊箱館裁判所を以て開拓使出張所と爲す
 三年函館に病院を建つるを議し、閏年十月十
 三日判官岩村通俊、權判官杉浦誠等各國領事
 館と計りて函館山脊泊に外國人墓地を定めた
 り△四年三月開拓使本廳を置きしにより、東

函館案内

久世長官岩村判官は函館を引拂ひて札幌に移る四月函館に燈明船を設け工部省の掌る所となれり、五年函館札幌間及び函館、青森間の電線成る△六年三月函館大火あり延焼千三百餘戸に及び死する者あり、此歲函館、森間の馬車往復を始む△七年福島より福山を経て函館へ電線を通ず△函館裁判所を設け從來開拓使函館支廳に於て管理せる聽訟斷獄の事務を執掌せり

此歲始めて函館、青森間の郵船を開く△八年四月函館又大火あり四百戸を焼盡す△九年七月天皇東巡青森より海を踰り函館に幸し給ひ蹕を駐めさせらるること一日、函館支廳へ御臨幸協同館へ御させ給ふ△此時三等出仕杉浦

誠は北海道地誌要領外十九部を奉り上奏する左の如し

伏シテ惟ミルニ皇政維新首トシテ開拓ノ詔ヲ下シ本使ヲ置キ専ラカヲ開闢ニ盡サシム臣誠幸ヒニ昭運ニ遭遇シ上、龍鱗ヲ攀テ叨リニ萬乗ノ憂ヲ分チ下、驥尾ニ附シ擅マニ一方ノ寄ヲ受ク臣誠治民ノ術ニ乏シト雖モ亦 陛下德威ノ厚キニ倚ル今ヤ管内所域既ニ拔ケ行道大ニ允ル戸數漸ク殖エ十萬二千餘人、田野日ニ墾シ二千四百町餘、漁獲歲ニ豐カニ十有一萬石餘、小學校立チ生徒以テ教育スヘク、傳習所開ケ教師以テ陶成スヘシ、一條ノ平道ハ街衢ヨリ森村ニ達シ柳メテ陸路搬送ノ便アリ數艘ノ涼船ハ港口ヨ

函館案内

リ青森ニ航シ始メテ海洋運輸ノ利アリ、電信郵便ヲ設ケ、濟生恤貧ノ法庶績緒ニ就キ次第ニ舉行ス、是レ皆

陛下盛德ノ致ス所ト本使調理ノ宜キヲ得ルトニ因ル、况ンヤ今 聖上親臨地方深ク甘雨ノ澤ニ霑ヒ人民誰カ報恩ノ志ナカラシ臣誠縱ヒ期月自ラ理スルノ才ニアラザルモ亦タ三年都ヲ成スノ効ヲ視ン臣誠衆庶ト與ニ此曠世ノ昌期ニ際シ非常ノ盛典ニ逢フヲ祝シ抃舞ニ堪ヘズ梗概ヲ上奏スル此ノ如シ

天皇陛下大御心を我が北海道に垂れさせ給ふは申すも畏れ多き事共にて此折 天皇には更に岩倉右府をして開拓着手の順序管内施政の畧を問はせ給ひ杉浦誠之に奉答すらく「開拓

ノ業ハ永遠ヲ期スベク旦夕ノ功ヲ見ル可ラス其要目着ヲ變セサルニ在リ且ツ開墾ノ如キハ論ヲ待タズ、漁業ハ地勢ノ宜キニ因リ忽セニス可ラズ」と仍て開拓使施行の事業、函館施政及び風俗等の畧を奏す△同九月北海道大小區劃を定め、大區三十小區百六十と爲す、是より先五年五月區劃制定に際し函館市街を三大區五小區に分つ十一年函館大火あり、十二年又大に火を失す、七月二十三日大小區劃を廢し郡區を置き區役所を當地に置き始めて函館區と稱す、龜田、上磯二郡役所を龜田郡龜田村に設く△十一月農業假博覽會を函館に開く△十三年函館區會を開設す、十四年九月六日天皇北巡再び蹕を函館に駐めさせられ、北白

川宮能久親王函館支廳に臨み、大書記官時任爲基左の表を上る

恭シク惟ミレハ 天皇陛下神明其德寰宇ヲ照臨シ憂ヒ蒸黎ニ功ニ、慮リ稼穡ニ深ク萬機ノ餘暇敢テ逸豫セス方ヲ省ミ化ヲ布キ幸子虚歳ナシ炎天風ニ御シ變絡既ニ南方ニ幸シ迅鯨波ヲ凌キ龍艦又北海ヲ巡ル時雨ノ澤遠ク札幌ニ被リ來蘇ノ惠再ヒ函館ニ施ス葵忱后ヲ俟ツ望霓ヨリ切ニ庶民子來シ乃チ行宮ヲ營ス結構神速輪煥ノ美少シト雖モ風光天然庶クハ寂藻ノ麗ヲ資ケンコトヲ聯山北ニ秀テ黛色ヲ簷角ニ呈シ積水西ニ涯リテ鏡光ヲ 陛下ニ奉ス此レ寔ニ聖德ノ致ス所人爲メニ由テ然ルニアラス臣叨リニ司牧ニ

一
磨リ親シク盛事ヲ觀ル踊躍ノ誠恒品ニ百倍ス慶抃感悅ノ至ニ任ルナシ謹テ表ヲ奉シ陳賀以聞ス

支廳一覽表を奉つり管内施治の要を上陳し了り廳中の各課を天覽せらる市内の紳商拜調を仰せ附けられ七日聖駕青森へ航し給ふ△十五年二月八日開拓使を廢し函館、札幌、根室の三縣を置く

▲縣廳時代 開拓使廢せられ三縣を置くに當り函館縣令に任せられたるものを時任爲基と爲す、函館縣廳管轄區域は矢張り開拓使函館支廳當時の管轄區域と同じ、縣治時代の續きしは僅かに四年にて此間何事の取立て擧ぐべきものを有せず當時新開地のことにて自然内

地各縣と風俗人情を異にするものあり、同一縣治の下に支配せられざるの事情あるより縣廳時代も十九年一月を以て終り同月二十六日北海道廳を札幌に置き函館根室に支廳を置くこととすはなれり

▲道廳時代 然るに此時新置されたる函館、根室の兩支廳も同年十一月二十八日を以て廢せられ函館に長官出張所を置き尋で之を廢し、全道の郡區直ちに北海道廳に隸屬し函館區役所と變じ爾後十有餘年此儘に繼續し來りしが長官安場保和時代となり全道の郡區役所を廢し各支廳を置くこととなり以て今日に至

道廳長官を擧れば十九年一月司法大輔岩村通俊長官に任せられし以來今日に至る

迄長官を代ふること八人即ち左の如し

岩村 通俊 永山武四郎
渡邊 千秋 北垣國道
原 保太郎 安場保和
杉田 定一 園田安賢

箱館區長より支廳長に至る迄の更迭は左の如し

二木彦七 添田 弼
椎原邦太 曾我部 道夫
財部 羞 龍岡 信熊
加藤廣說 龍岡 信熊

●開化

函館開化の由來は其天然の地勢良灣たるが爲めに種々外部の幫助を得たるに依るべしと雖ども、今其進歩の段落を區別すれば左の五階級となすを得べし

▲第一は奉行所設置、第二は開港、第三は戦亂、第四は火災、第五は區制施行即ち是れ也
 ▲さしも繁華を街ふ函館市街も其始めは不完全なる集落に過ぎざりしに享和三年始めて奉行所を設置せられしより茲に一進歩を來したり
 ▲それより諸外國の領事館を設置し外國商人等の居留するもの多く外國貿易は茲に開かれ函館の繁華を増加せしこと著るしきに至る

▲扱又明治維新の戦亂時期となりては一般に古來の風物を打破し歐米の新様に移らんとする大勢の勝利となりたる事故開港場たる函館の面目に長足の進歩を促がしたること素より論を俟ず

▲次は明治十一、十二年兩度の大火に伴ふて市街道路の改正を行ひたるとなり殊に十二年の大火は未曾有の災厄にして元堀江町即ち今の東濱町より發火し戸數二千二百餘戸を蕩盡し爾來大火のある毎に道路改正を斷行し全く不規律なる状態を一變するに至る
 ▲最後は即ち三十一年の區制施行なりとすこは多年特別保護の下にあり憲政の民となりつゝ自治の權を得る能はざりしに始めて札幌、小樽と共に自治制度の初階級に入りし也

●官衙

▲函館區役所 三十一年區制施行以後設置せしものなるが今猶ほ假りに函館支廳内に在り、年月未だ淺きを以て沿革の記すべきものなし、區長は林悅郎也

▲函館支廳 是れ大いに沿革を有する官衙なり、位置は函館元町に在り、松前藩所轄の時に龜田番所を此に移せしもの、其始め官吏常に居らず、事あれば來り臨み、事罷ば去る、享和二年幕府函館奉行を置き東蝦夷を措置す、三年春官廳成る、後ち元治元年廳を五稜廓内に移し、明治元年改めて裁判所となす、十月賊軍陥れて之に據る、二年五月事平らぎ又函

館舊廳に移る、七月開拓使を置き、九月開拓使出張所となし長官以下此に在て事を執る、十五年三月開拓使を廢して函館縣を置き、十九年一月縣廳を廢して北海道廳を置き、復た全道を一統するに當て支廳を此に置き、十二月支廳を廢し長官出張所となし、二十三年六月出張所を廢して外交事務を函館區役所に兼務するに至れり、其後區役所を廢し支廳となりしが、三十一年市町村制實施に當たり再度區役所を置き、外交事務は支廳内に於て扱ふ
 ▲函館税關 其昔運上所と稱す、明治二年八月函館府議事局より開拓使に附す、五年今の仲濱町に建築し函館運上所と稱す、六年一月税關と改稱し大藏省所管に歸せしものなり

▲水上警察署 寛政十一年正月幕府沖の口番所を置き、明治二年九月函館府議事局より開拓使に附せられ之を海官所となす、八年二月船頭所と改稱し、尋で船改所を廢し今の水上警察署を置き函館警察署の分署となし出入の船舶を點檢す

▲函館郵便電信局 明治五年七月これを設け函館東京間の線路を開く、二十年電信局を併せて今の名稱となす、信書及び電信の取扱數は全國稀に見る所なり
其他主なる官衙には函館控訴院、函館區裁判所、函館地方裁判所、函館稅務所、函館船舶司檢所、函館警察署、憲兵屯所、函館測候所、築城部函館支部、北海道監獄署函館支署、要

塞砲兵大隊、御料局出張所等あり

●學校

現在の公私立小學校及び各種學校を舉れば左の如し

▲公立 彌生小學校、實小學校、幸小學校、函館女子高等小學校、東川小學校、高砂小學校、住吉小學校、以上
▲私立 堀川小學校、一貫小學校、若山小學校、鶴岡小學校、古川小學校、吉祥女學校、六和女學校、惠以小學校(以上の内吉祥六和惠の三校は各寺院の設立に係るもの)
▲各種學校 函館英語學校、巴學校、簿記傳

習所、大石裁縫女學校、開北學舎、繪畫專門學校、早川裁縫女學校、函館幼稚園、以上
▲外國人設立學校 遺愛女學校、元町女學校、(舊聖保祿)、靖和女學校、正教學校、函館訓盲會等
▲函館中學校、函館商業學校、函館商船學校
いづれも應立に係る
以上公私の學生男女を合して確實なる調査を経ざれども一萬以上に達すべし

●病院

▲函館病院 明治二年九月舊山の上町民政方病院を開拓使に屬し函館病院と改稱せり、十

二年火災に罹り、十四年天神町に新築し、二十三年四月公立となる、三十三年院内より火を失し、豊川病院にうつる、豊川病院は明治十一年の設立にかゝり第一公立病院と唱へしが十四年十月豊川病院と改稱し、久しく兩立したれど火災後は一とをれり、函館病院再築の風説あり、遠からず完全せる病院をみるに至るべし、目下の院長は佐藤醫學士
▲私立病院 深瀬病院、藤野病院(婦人科)、函館外科病院(院長桑原)、五稜眼科院、驅煤院、蓬萊病院、後藤病院其他數ふるに違あらず

▲慈惠院 先年東川町に設立され、孤兒、貧兒、病者を收養せられつゝあり

●社寺

▲國幣中社八幡宮 谷地頭町にして臥牛の山腹に鎮座し函館第一の大社也、年を重ねること二百四十餘年▲山の上大神宮 天和年中龜田村にありしもの▲船魂社 創建されしは保延年間と云ふ▲住吉神社 明暦元年鎮座す▲海神社 今を去る百十餘年前の創建にかゝるものにて其他稻荷神社等尠からず▲招魂社 船見町にあり、明治二年官軍の戦死者を祀る、同年九月創建、同十年七月拜殿を建築さる

▲稱名寺(淨土) 正保元年龜田村に創立し、目下船見町に在り▲高龍寺(曹洞) 寛永十年

龜田村に創立したるもの、目下臺町にあり▲實行寺(日蓮) 明暦元年上町に創立し今船見町にあり▲大谷派別院 舊淨立寺と稱したり、寶永八年中木古内村に創立せしを寶永五年函館に移す、今元町に在り▲西本願寺別院 安政四年東川町に開始さる▲眞言寺 臺町に在りて天保十一年の創建▲新善光寺 安政六年の創立▲常住寺 日蓮宗本山久遠寺の末派、明治十二年創立▲高野寺 明治十七年創立▲新泣連寺 明治二十四年創立▲其他信州善光寺出張所 成田山新勝寺の末寺等東川町に近來創建されたるものあり

外教には英、露、佛の寺院山の手に在りて、函館メソヂスト教會 日本基督函館教會等あり

り、本年に入りて更に函館組合教會なるもの曙町に創立さる

●交通

▲陸路 函館より福山に到る二十五里二十丁四十九間(此間上磯、谷好、富川、茂邊地、石別、釜石、泉澤、札蒔、木古内、尻内、福島、白符、宮歌、吉岡、荒谷、大澤等の各村あり)旅行の不便なし▲函館より森村に到る十一里十八丁(此間龜田、桔梗野、大中山、七飯、藤城、峠下、宿野邊等一里乃至二里の小村あり)▲函館より江差にいたる十九里二丁三十七間にして(此間大野、本郷、市の渡、中山、

鶉山道、俄虫、土橋、目名、田澤、泊)の各村を経て馬車の便あり

▲海路 函館、小樽間 福山迄四十二海里、福山より江差迄四十海里、江差より上り壽都八十四海里、壽都より岩内十八海里、岩内より小樽まで六十八海里にて函館より小樽まで二百十八海里とす▲東海岸至根室二百八十九海里にて乗船賃は根室迄一等八圓、三等三圓五十錢▲函館岩内間の賃錢は函館より江差まで並等一圓五十錢、壽都まで二圓、岩内まで二圓二十錢、函館より小樽まで並等二圓等に小兒四歳未満は無賃、十二歳未満は全運賃の半額とす

青森、函館、室蘭間には朝夕(隔日)の定期を設けられ、札幌間の鐵道と連絡を通じ其便いふ計りもなし

遊樂

此欄には公園地、谷地頭、新藏前、湯の川温泉、劇場及び寄席を紹介すべし

▲公園地 その規模は箱庭的なるもその眺望は無限なり、西南臥牛山を負ひ、右は尻澤邊より汐首を望み渺茫たる大海原を控へて火輪船の往來を眼下に集む、四時の漁舟絶ゆることなく海を隔て、南部津輕の青黛模糊を望むの大觀蓋し日本の各地公園中見るを得べから

ざる舞臺ならむ、而して左は直ちに市街に接して巴灣の賑はい入船出船を數へつべく、灣を隔て、遙かに駒ヶ岳及び七重諸山を掠め赤川の水源より五稜廓湯の川等を眉睫の間に齎らし來る、若し夫れ園の一角なる榑鉢山に登らむには海山百里の絶景を擒にすべし、故黒田清隆君の開拓使長官たりし當時園内の碑石に題し、「海山奇勝」と記せしもの過賞にはあらざるなり、園は明治十一年の設立に係り、翌十二年工事の落成を告ぐ、當時函館縣令時任爲基君等を始め区内有志大いに設計に盡力したるが、就中淺田樓主人故淺田清次郎氏の如きは設計に與つて大に力ある人なり、園内梅樹櫻樹に富み、五月の候梅櫻一時に開くの

奇觀は亦他國に見る可らず、園内二箇の博物館(水産陳列場)あり、全道海陸の産物、舊土人の手工品、奇魚奇獸の標本、漁具獵具の雛形等餘す所なく實に人造天工兼備の娛樂園たり ▲谷地頭 公園の眼下に一の閑雅なる低地あり名けて谷地頭と云ふ、函館第一の大社八幡宮茲に在り、戊辰の役に斃れたる幕臣を祭りし碧血碑も茲に在り、区内紳士の別荘、割烹店等各所に散在す、割烹店中淺田樓、勝田樓、百花園、柳川等は普ねく人の知る所、又名物葛餅あり、勝田温泉効驗著るしく浴客四時未明より押掛け頗ぶる繁昌なり ▲新藏前 舊藏前は西川町に屬し昔時常平倉のありし所なるを以て藏前の稱あり此地七八

年以前までは露店兩側に並び百貨を鬻ぎて其般賑淺草藏前若くは東京各所線日の有様に似たりしが街路取締上場所を東川町に移され茲に新藏前と名稱を更ふる事となれり、夏秋の候殊に繁昌を極め、見世物機關手踊輕業等の興行絶へず、すしや蕎麥店天麩羅おでん燗酒等あらゆる飲食店を出し昔時の藏前を此の片隅に寫し出しぬ、名物の白首又此邊に巢窟を構へ、田舎出の哥兄を引くことむかしも今も異ならず ▲湯の川温泉 は函館を距る二里許の龜田郡下湯の川村にあり函館よりは鐵道馬車通じて往復すべし、温泉は數箇所に開發され、湯元は石川と云ふ、其他洗心館、林長館、保養

遊樂

園等にて何れも旅館料理店を兼ね、四時共に唯一の保養所とし、就中夏季は遊客多し、土地海濱に沿ふを以て鮮魚に富む、やゝ秋季に近づきて附近の川に鮎釣の快楽あり、遊獵の候銃を肩に一泊を試みるも妙なり

▲温泉の効能

慢性胃及び腸加答兒、慢性腰痛、肝臓充血、慢性神経病、慢性皮膚病、慢性癩瘡質斯、梅毒性諸病、慢性胃消化不調、重病快復期、泌尿器加答兒、慢性麻痺病、脚氣快復期、婦人生殖器病、慢性痛風、腺病、痔の出血より起る貧血病、慢性下痢、シキールホーク(口中の病)、婦人の不孕、月經不順、其他諸病によしとせり

須町に竹内亭、東川町に第一いろは亭あり

●青樓

市街の東西二所に分れて遊廓地あり、東を蓬萊町と爲し西を臺町と爲す、東廓は吉原に似て西廓は洲崎に似たり、明治十二年及び十九年兩度の大火に逢ひて全廓烏有に歸したる事ありしも、直に舊觀に復して絲竹喧嘩曉に徹し電燈の光煌々として眞に不夜城の名を欺かざるの趣ありしが同三十三年内務省訓令に據り一般の店張を廢せられてより亦昔日の盛觀無く、僅に低唱微吟の痴態を演ずるに過ぎず、三十四年中の調査に據れば、

青樓

其他の遊覽場、温泉として數ふべきもの多きなれど湯の川より一里半、錢龜澤に至らば、年古し「枋の連理木」をみるべく、一里北方に當りて神山の温泉あり、なほ四五里遠くには尊榮沼といへる雅客の必ず杖を曳くべき個所あり、初夏沼に一艘の船を浮べて鮎をつるべく、尊榮沼に一瓢の飲かたむけざるべからず、月薄き森の眞上に杜鵑の聲をきく、此地年々避暑の候、外國軍艦の入港に際し、多くの將校馬を馳せ或は馬車を驅て向ふ

蓬萊町

自宅營業者及び見番藝妓 七十九名

娼妓 三百三十八名

大黒町

自宅營業者及び見番藝妓 四十七名

娼妓 (臺町) 六十六名

外に娼妓檢査所東西に一個宛あり、兎に角く前々年に比して著しく減少せる傾きあり、今東西兩廓の貸座敷并に割烹店を左に掲ぐ

○東廓之部 (蓬萊町)

武藏野樓本店、同支店、丸山樓、蓬萊樓、金菊樓、金盛樓、宮川樓、石港樓、いろは樓、喜松樓、千登世樓、新開樓、喜盛樓、梅花樓、盛龜樓、昇月樓、歌川樓、新金丸樓、宮城野

樓、清嘉樓、明治樓、幸龜樓、盛喜樓、九十
 九樓、招盛樓、第二丸山樓、田中樓、山田樓、
 泉樓、朝野樓、第一石港樓、靜田樓、大川樓、
 正菊樓、晴弘樓、新盛樓、吉田樓、近陽樓、
 山喜樓、弘盛樓、吉野樓、宮城樓、晴弘樓、
 三河樓、圓國樓、東海樓、常盛樓、二羽樓、
 山口樓、風月樓、朝日樓、北海樓、越路樓、
 一文字樓、松月樓、盛龜樓、北越樓、

○西廓之部 (臺町)

喜笑樓、岩手樓、富山樓、豐平樓、福山樓、
 鶴松樓、常陸樓、大黒樓、富山樓、久米川樓、
 安井樓、丸金樓、

○割烹店 (東西兩廓及び廓外とも)

小林亭、淺田屋、勝見家、丸も、勝田、山田、

百花園、輪島屋、北海家、金中、角中、山松、
 今長、喜仙亭、角鱗、柳月、昇月、天新、藤
 のや、まきのや、美どり、さくら井、

○西洋料理

五島軒、北榮軒、五稜館、芳來亭、常盤木、

○鰻屋

一入川、入川、山川等にして其他枚舉するに
 遑あらざるなり

●鐵道馬車

▲馬車鐵道株式會社 東川町二百二十八番地

創立當時九萬圓
 資本 現今 拾五萬圓

目的布設線路は龜田村龜田橋を起點とし函館
 區海岸町若松町鶴岡町地藏町末廣町大町辨天
 町に至る二哩半、同辨天町より幸町西濱町仲
 濱町東濱町を経て末廣町永國橋に到る一哩半
 合して三哩半に幅四尺の複線軌道を設く、又
 同末廣町より惠比須町蓬萊町を経て東川町迄
 及び東川町より鶴岡町迄一哩三分五厘餘の間
 幅四尺の單線軌道を敷く

會社開業は明治三十年十二月十三日にして開
 業當時の線路は全線路の三分一、即ち會社を
 起點とし東川町蓬萊町を経て末廣町五十六番
 地現今の十字街迄千四十六間二尺、同十字街
 より末廣町大町辨天町角迄七百四十九間五尺
 五寸、又本社前より音羽町を経て鶴岡町地藏

町を経末廣町十字街に達するもの八百三十三
 間三尺五寸なりし、此間區畫を定むること左
 の如し

- 第一區 (本社より東川小學校前に至る)
- 第二區 (東川小學校前より新藏前に至る)
- 第三區 (新藏前より末廣町十字街に至る)
- 第四區 (十字街より基坂に至る)
- 第五區 (基坂より辨天町角に至る)

之を本線と爲し支線は本社前より音羽町を経
 て末廣町十字街に至る迄を最初三區に頒ちし
 が後二區に短縮したり、賃錢は每一區一錢五
 厘也

複線工事は明治三十一年五月に着手し辨天町
 角の線に接續して西濱町十九番地角より濱通

り仲濱町東濱町を経て末廣町十字街に達する線路、辨天町より十字街間ともに複線の工事を竣功し同月二十五日を以て開業す、即ち區畫を定むること左の如し

第六區 (辨天町角より仲濱町税關前に至る)

第七區 (税關前より末廣町十字街に至る)

第八區 (十字街より鶴岡町交番所前に至る)

第九區 (鶴岡町交番所前より本社に至る)

乗車賃は前の如く一區一錢五厘也

其後龜田村に達する線路の工事に着手し第二回到竣功せしが鶴岡町巡查派出所より若松町中央迄を一區とし、同所より海岸町巡查派出所迄を一區とし、同所より海岸町中央迄を一

所迄を一區とし、同所より海岸町中央迄を一區とし、同所より龜田村に至るを一區とし都合四區に分つ、乗車賃は矢張每區一錢五厘也湯ノ川線は別項湯ノ川案内の中に就て見るべし

當時會社の使用する客車は二十五臺、馬匹九十七頭にして車掌馭者各々三十三名、馬丁十名、工夫十名なり區内は發車午前七時半より午後十時迄二百回乃至二百二十回にして一時間十三臺乃至十五臺を發車す

●人情風俗

函館は諸國人の集合せしものなるが故に人情

の如きは至つて輕薄ならむと思ふもの無きにあらず、されど新開地の人心として見を得べからざる質樸の人多く、又故郷を離れ他に寄る邊なきを以ての故か、人々親睦に交はり情合大ひに暖かきものあるは喜ばしき事なり、只夫れ人懐かしきが故に人を愛す、されど新住の土地として土地を愛するの念慮に缺くる所あるは是非もなし、又風俗を言へば一般に奢侈に傾むくが如し、何となれば素と一攫千金的の立身者によりて成れる函館なれば、衣食ともに他國に比して驕りに長ずるは自然の勢ひなればなり、然れども追々年と共に永住の民も多く、墳墓を有する人も多くなりしが故に愛郷の念も次第に生ずべく、近年引續ての

有名なる商店の案内

不景氣は因習の奢侈をも餘程戒しめたらんが如く、勤儉貯蓄の風大分見ゆる様になりたり

●有名なる商店の案内

時勢の變遷は人事の頻繁を加へ、朝に同業の競争あれば夕に新奇の開店あり新聞の廣告潮の如く告狀の散布落葉に似て往々撰擇に苦むは今日一般の有様なれば茲に案内の欄を設け函館區に在りて親切勉強の評判ある各種の商店を心付のまに信用ある所の人々のみを掲げたり故に若し信用缺乏を認る時は之を抹殺するに吝ならざるべし

東濱町

株式第三銀行函館支店

(寫眞版参照)

株式會社第三銀行は壯麗なる二層樓の建築物にして東濱町十九番地にあり其位置の適所なる株式會社百十三銀行と相對峙するが故に實に見事なる函館の價値を他に誇稱するに足る同行は明治九年十一月國立銀行條例に據り資本金貳拾萬圓を以て誕生す爾來發育と共に増資の必要を生じ明治十一年六月金拾萬圓を増加し金參拾萬圓と爲る同十五年七月舊第四十四國立銀行の業務を合併せるにより一躍して

資本金百萬圓に増進し同二十九年十月國立銀行營業滿期に付き株主に屬する勘定の決濟を遂ぐるに及び資本以外金八拾餘萬圓の剰益を生じたるを以て之を各株主に分配し同時に資本金貳百萬圓に増加し國立銀行營業滿期處分法により同年十二月其資格を改め私立銀行と爲し株式會社第三銀行と改稱せり其翌三十年六月再び株式會社第八十二銀行の合併を行ひ則ち現今の資本金額金貳百四拾萬圓となりたるなり
同行は創業以來茲に至るまで歳を閱すること二十有五年其間資本金を増加すること已に十二倍に達し其發育の健全なる多く見ざる所にして目下の取引銀行は全國二百四十餘箇所に

巨れりと聞く

同行常支店員は皆な從來の經驗と熟練とを以て能く勉勵事に従ひ敏活に懇切に取扱ふため當港實業界に於ける信用頗る厚く隨て業務は日一日に隆盛の域に進めり

キト旅館

(寫眞版参照)

キト旅館は當港棧橋前にして四通八達眞に便利の位置に在り同館は當港旅館中第一位に算へられ所謂上流貴紳士の定宿とする所なり客室清酒裝飾の器具能く四時の風好に適し三層樓上眼を放てば南部津輕の碧峯翠岳を眺望し脚下は巴港の灣中帆檣林立するあり風光絶佳

有名なる商店の案内

當港中其比を見ず旅客に對し懇切と正實とは同旅館主人宗澤茂七氏の内規とする處なり

東洋堂高須商店

(寫眞版参照)

東洋堂高須商店は東濱町棧橋前に在り洋酒、食料、罐詰、瓶詰、西洋菓子、罐入麵麩、菓子掛物、西洋煙草各種、北海道産物類、其他珍品進物用品雜貨類を販賣す商號を「東」と云ふ
同店販賣の商品は各産地と特約を結び品質の精撰を勉むるが故に信用厚く販路は區内幾多の需用者は勿論遠く海外に輸出す
同店が常に店頭雜踏を極め益々業務繁榮の域

東濱町

に進みつゝある所以のものは是れ他なし同店の位置天然の地勢函館樞要の地でありと雖も一は當店主高須長七郎氏の温厚にして實直一時の名利を欲せず品質を精良にし低廉勉強を本旨とせしに依るとの世評専らなり

○ 旅館

(寫眞版参照 荻原豊次郎氏)

東濱町棧橋前に在る三層樓の旅館にして其屋號を越後屋と云ふ其記號の『キトほし』は却て人口に膾炙する所なり 壯麗なる三層樓は空氣の流通よろしく客室の配置宜しきを得其取扱ひ頗る丁寧なるが故に旅客常に多く客筋は津輕南部越後東京大阪神

三〇

戸等の商業家尤も多し其他横濱馬關名古屋地方より年々當地に來る商人の此家に投ずる者尠ならず誠に恰好の旅店なりとす 當館主荻原豊次郎氏は能く世務に通じ尤も機敏に尤も親切に自ら其業に當り爲めに世に信用せらる先づ當港最上の内に數ふるも敢て過稱にあらざるを信ず

○ 商店

(海老根千代之助氏)

丸福一商店は東濱町にあり雜貨店の傍ら雇人口入の業を兼ね信用のある店なり 因に誌す 當主海老根氏は當港に於けるおいらんまめの元祖なりとさく

○ 森龜牛肉店

(山田龜吉氏)

函館にて森龜といへば誰れ知らんものはなし 同店は東濱町四十五番地に在り牛肉を販賣し傍ら英獨等の各國海軍食料品を取次ぎ区内有名なる商店なり

○ 植田商店

植田商店は當區有名なる昆布茶昆布菓子細工昆布の製造元祖なり東濱町通り二十間坂西へ入る(丸米印旅店)の向にあり

同店はよく昆布を製し種々なる菓子を製し内地への御土産ものに至極便利なる箱詰あり特に

有名なる商店の案内

○ 内山商店

(内山富吉氏)

東宮殿下御婚儀式の當日公園地に於て函館區民奉祝の節には同店よりは昆布細工にて菊童子菊花を遊戯せし處を作り菊壽をさくげたてまつりたる昆布に基き工風を凝し原料佳味なる昆布を利用一菓を撰製し萬壽無疆なる紀念菊花を模造したるを以て『壽の司』と名付け賣出したるは斯業の熱心なるを賞するに足るその時の俳句に

天地のあらんかき利を菊馨る

内山商店は東濱町五十六番地に在り商號を『金一』と云ふ近來の開業なれども確實なるを

三一

東濱町
以て日々華客増加し隆盛に赴く海陸物産の粕肥料委託賣買の商店なり

三二二

利にして流行する商店なり

三二二

○近藤商店

(寫眞版参照 近藤鐵次郎氏)

近藤商店は東濱町四十八番地に在り商號を『近』と云ふ此附近に於て稀に見る所の雜貨店にして販賣の品種は擧て數ふべからず先づ其重なるものは和洋酒、和洋砂糖、煙草類、紙類、石油、蠟燭、鐘詰、瓶詰等にして其他日用必需の物品は殆ど取扱はざるなき商店にして卸賣と小賣を兼ね
同店主は確實にして勉強なるは世の知る處なるが故に華客の信用を得日に繁昌を來たし便

能登川第一支店は東濱町三十四番地にある宏壯なる二階造の建物なり

○能登川第一支店

(寫眞版参照)

同店の營業等は西川町本店に詳細なる説明を爲したるものなれば茲に其繁を省く事とせり

○平田濱店

同店は末廣町金二の支店にして東濱町十一番地であり鐵網等を販賣する商店にして商號は金二なり

○四庄野商店

庄野商店は東濱町五十六番地に在り商號は『角八』なり海陸物産、食鹽の間屋なり物産の輸出物は重に京濱鹽釜青森秋田酒田等に華客を有す食鹽は区内の老舗を凌ぎ鹽問屋の角八として其名高く確實なる商店なり

せられ革新先鞭は同店の大標榜なり

○因旅館

(樋口重親氏)

料理店
モシ〓〓〓二六番話中なら十番の、まるも料理店は東濱町棧橋前にあり客室庭園共に清楚にして待遇又頗る實直なり故に紳士連の華主最も多く蓬街の小林亭谷地の淺田樓西の勝見家と並列して當港料理店の四天(店)王と稱

有名なる商店の案内

角大旅館は屋號を武藏屋と稱呼し東濱町棧橋前にある三層樓の旅館なり
家は三層樓の壯麗なる建築にして巴港に面し客室の構造宜しきを得器具等の清潔なるは常に來泊する人士の稱賛する所なり殊に其待遇頗る懇切丁寧にして萬事如才なきが故に來客常に滿ち偶々旅客の同店に宿を求むる者時に或は謝絶せらるゝが如きの盛況なりと云ふ
其客筋は重に官吏、議員、銀行會社連等の上等客に多く内地各府縣に亘る紳士紳商等の大

三三三

仲濱町

半は毎時此家の常得意とする所なり
函館の旅館と謂へば一口に待遇の悪きを批難
する者ありと雖も同店の如きは一點の非難を
加ふべき處なき好旅館として之を評するを得
べく上等客の來泊には尤も適當にして先づ當
港最上の内に數ふべし

○西島屋洋物店

西島屋洋物店は東濱町十二番地に在り洋酒食
料品、食器類、各種卸小賣及洋小間物、洋服裁縫を
業とす
而して其商品は洋酒食料品と洋服裁縫とを論
ぜず洋小間物類の各種に至る迄原料の仕入に

抜目なくして時々流行新柄に注意し能く來
客の萬足する様勉むる而已ならず直段の廉な
るは第一に顧客の喜ぶ所にして商賣の繁昌な
ること斯の如く又得意の信用を有する事斯の
如きは常に誠實と勉強とを以て業務に當るに
基づくべしと雖も要するに同店の如きは能く
商賣の極意を得たるものと云ふべし

仲濱町

○常野度量衡店

(寫眞版参照)

常野度量衡店は仲濱町中央にあり店舗の構へ
壯麗にして巨大なる一見以て老舗たるを知る

べし

同店は度量器製作を業とし専ら度量器製造修
覆を爲し其販賣を兼ね同店は品質の佳良製作
の堅牢を以て世人に信用を博し内國勸業博覽
會に於ても褒狀を賜れる程なり
爾來時世の變遷に隨て益々改善の途を講じた
るを以て業務の進歩は一頭地を出し現今區内
幾多の同業者を生ぜしと雖も同店に匹敵する
者を見出す能はず
近來に至りて殊に大に規模を擴張し以て其製
作販賣の區域を増殖せしめんことを圖り更に
工場を設け熟練なる職工を使役して盛に其製
作に従事しつゝあり
度量衡器の製作が正確ならざる可らざるは更

有名なる商店の案内

に多辯を要せず度量衡器の検査法の嚴格緻密
なる固より其所なりと雖も稍もすれば粗製濫
造の弊を生じ易き虞あるに拘らず同店は勉て
完全無缺の精製品を出すを以て其需用頗る多
く全國度量衡器製作店中に在ても常に屈指の
中に在りと云ふ

○北海道共同株式會社

同會社は仲濱町十七番地にあり營業の目的は
米穀海産物受託賣買にして傍ら札幌麥酒株式
會社釀造のラガ麥酒及黑麥酒大販賣代理店、
北海道セメント株式會社製造のポルトラン、
セメント及北海道炭礦鐵道株式會社採掘の石

西濱町 幸町

炭函館一手販賣を爲す
同會社は基礎鞏固にして敏活と熟練とを以て
鍛へ上げたる社員を有するが故に業務益々擴
張し隆盛の域に進み信用尙厚きを加ふるに至
れり

西濱町

○淺野石油部函館出張所

石油直輸入販賣を以て有名なるは西濱町十三
番地淺野石油部函館出張所なりとす本店は横
濱にあり店員が客に對する懇切と鄭重とを旨
とするが故に當港の信用最も厚し其石油は扇

三六

印タンク扇印、日本石油等なりとす

幸町

○山村鐵工場

(寫眞版参照)

山村鐵工場は諸器械製造を以て有名なり幸町
にありて創業以來實に五十有餘年の久しきを
一貫して諸器械製造に従事し當港著名の鐵工
場なり

當主の父故山村久兵衛氏弘化元年に當區神明
町に(今の黒町)始めて鐵工場を開く氏よく
諸器械製造の術に長ずるを以て頗る聲名を博
す爾後今の處に移る當代主友三郎氏は父の志

辨天町

○國領藥舖

(寫眞版参照)
國領平七氏

を襲ぎ業務を擴張し自ら業務に従事し職工
監督の任にも當り以て熟練なる職工を役使す
るが故に製品の堅牢なる價格の低廉なるは同
場の特長として重て世に信用を博するに至れ
り而して該製造所の位置海岸に近く船具諸器
械の製造修繕に好適所なるを以て同場の顧客
の多きこと他に比肩するものなし實に本港同
業者中の巨擘と稱するも敢て過言にあらざる
を信ず盛なりと云ふべし

國領藥舖は辨天町より彌生坂に向つて右角に
あり軒頭高く燦爛たる金看板を掲げ最も古き
内外國賣藥及化粧品問屋なることは人々の知
る處にして尤も信用ある顧客の多き老舖なり
とす商號は「金」なり
凡そ内外國各地諸名家諸藥店に於て調劑發賣
する賣藥類及全國各地に於て製出する處の有
名なる化粧品類は其數幾百なるを知らずと雖
も同店は汎く之を取次ぎ有効顯著の種類は完

三七

有名なる商店の案内

備せざるなし故に本道各地の賣薬店は皆同舗より供給販賣するを以て店頭何時も顧客の絶ゆることなし

而して同舗の重なる營業品を舉ぐれば

○有名なる内外各國の賣薬

○内外化粧品各種

○和洋藥品

右は何れも同舗が最も意を用ひて營業する所にして其傍ら質商及貸倉業を爲す

質店は彌生坂の方に在り貸倉は本店の向にあり倉庫の堅牢なる地位の便利なると同店の手堅くして懇切丁寧なることは世の知る處なるが故に信用最も厚く二者共に隆盛なり

○そば

(寫眞版参照 遠藤由松氏)

丸南そばは辨天町六十六番地にある有名なそばなり御膳生蕎麥の傍ら夏はビヤホールを開き冬は柳川小田巻むしの得意の料理を爲す等顧客の便利を計るを以て世の信用を博す其待遇の親切と斬新美味なるは同亭の特長なりとの高評にて日々混雑を極む

○堀合羽店

(堀彌平氏)

堀合羽店は辨天町六十八番地に在り多年合羽を製造し入羽の合羽として遠近より賞揚せらる入羽は商號なり

同店製造の和洋ゴム引、雨合羽等は能く持久

に耐へ堅牢のものなりとの高評あり同店は原料の撰擇に注意し油及紙質の精良なるは他店の遠く及ばざる處特に品質の佳良にして低廉なるは同店の特長なるを以て需用者皆同店を指して來集す尤も確實なる合羽店なり

○北海新聞社

北海新聞社は明治二十二年五月函館區有志者數十名相圖り資本金として壹萬圓を醸出し設立したる者なり當時社名を巴港社と稱し「北海」なる題號の新聞を發行せり、後合資會社「巴港社」と稱せしも僅にして解散し更に工藤彌兵衛之を引受けたるも「北海」新聞は依然發行

有名なる商店の案内

○商業新報社

(寫眞版参照)

を繼續せり爾來種々の變遷ありし後明治三十一年社名を北海新聞社と改め同時に題號を「北海新聞」と更へ以後今日まで繼續せり同新聞の主義は不偏不黨にして全道中有力なる新聞と稱せらる同社は辨天町にして現今廣谷榎氏主幹として社務を支配し居れり

商業新報社は今を距る事九年以前(明治二十五年)中井三五七氏の創立に係るもの、吾函館に於ける實業界の羅針盤として新紙を發行し北海商業新報と名づく最初は毎週發行夫より隔日となり、今は保證金を納付したる新聞

紙の性格を具へたる日刊實業的新聞なり、其商況は迅速確實にして獨立獨歩、偏せず黨せず、大手筋の爲めに記事を曲庇するなく、々乎として函館實業界の眞況を描寫するを以て、實業家の信用を博す、左れば其印刷部數は頗る多く京阪其他の都市よりは絶えず廣告の依頼あるにても推知するに足るべく社運益々隆盛なり

同社は新聞事業の外活版印刷の業を兼ね其印刷の鮮明精巧なる價格の低廉なるを以て各商店に信用を得日増顧客増加の優勢を呈示す同社は辨天町二十四番地にあり現時の主幹は中井多吉氏なり

○原商店

(寫眞版參照)

原商店は辨天町六十六番地にあり牛鶏肉の卸小賣を爲し傍ら牛なべ鳥なべの輕便なる料理を兼業す

當店主原貞太郎氏は斯業の熱心家にして勉強なる同業者中比肩するものなく世の信用を博するも其處なるべく東に丸み西に丸原との高評を受け日々雜踏を極めり

大町

○常野茶店

(寫眞版參照)

常野茶店は函館の老舗として夙に江湖に知られ其の販賣高優に他店を壓倒する有様なり而して販賣品の製産地は本邦に於て有名なる山城宇治なり今や同地に出張店を置き専ら製造に従事し粗造のなき様年々本店より店主若くは店員を派して監督せしめ大に精撰する所あらしめれば顧客の信用頼に厚きを加へ販路の及ぶ所千島根室等本道一帯にして小賣營業者へ卸賣する高も亦鮮少ならず嘗て内外國勸

有名なる商店の案内

○常野紙店

(寫眞版參照)

常野紙店は大町の中央にある壯麗なる三層樓にして商號は「◎」と云ふ

業覽博會に出品し賞牌賞狀も十數種の多きに至れり、紅茶は本土及び臺灣産磚茶烏紅の各種にて販賣高近年また多額に上れりと云ふ尙ほ各地重なる販賣品は●山城宇治銘茶各種●諸國銘産名茶器類にして共に卸賣小賣を兼ね本店所在 函館區大町七番地店主は常野與兵衛氏商號は◎印と云ふ

支店 恵比壽町角にて本店同様の銘茶及び茶器を販賣す

同店は内外國製紙販賣、諸帳簿類製造販賣、及活版印刷を營業と爲すを以て有名なる老舗にして商號の「せに一」は却て人口に膾炙する處なり

同店製造の各種帳簿は其紙質の堅牢にして價の低廉なると體裁に美を盡す處は同店の特長にして夙に世上に高評を博する處なり又各襖紙類は近年美術工藝の進歩と共に襖紙引手釘、隱緞子繪絹、純金銀箔、總て室内裝飾品の如き漸次面目を新にし人々競ふて裝飾の美を先するの今日意匠の嶄新精巧を旨とし諸品の選擇は其最も必要とする所なるを以て同店は夙に此點に着眼し仕入は殊に時好に投じ實用に適する品を撰み勉て薄利を主として其販賣に怠ら

ざりしが故に今や襖紙其他の附屬品は概ね同店より購買するに至る就中紙類は精製佳良の品質を撰み印刷用紙諸紙類共同業中の巨擘として之を江湖に紹介するは強ち記者が誇大の稱揚にも非るべし

○内外國製紙販賣 ○諸帳簿類 ○襖紙類 各種
○表具用品一式 ○京都鳩居堂製筆墨類 ○印刷局製印肉

以上は單に其重なるものを擧げたる而已にして其他諸紙類の種別に至ては枚舉するに遑あらざ
又同店活版部は規模大にして輪轉印刷機手引印刷機數臺を備へ熟練なる職工を使役して其業に當らしむる爲め印刷の精巧にして鮮明な

ることは最も長所にして區内幾多の同業ありと雖も比肩すべきものなし

因に誌す 同店は惠比須町十五番地に支店を設け紙類等を販賣し華客の便宜を計れり

○壽全堂藥舖

同店は大町三十五番地にあり内外各國藥種を販賣す
同舖は醫藥用品は勿論醫療器械、工業用藥、内外有名賣藥の卸小賣を非常に勉強販賣するを以て顧客の信用を博し特に同店主は藥劑士なるを以て眞實に低價に調劑し且究民患者に對しては施藥すること數々なりとす之に依り

有名なる商店の案内

て其名聲遠近に普し

○網塚藥舖

(寫眞版参照)

網塚藥舖は大町十番地、十八番地にあり營業は内外各國藥種問屋にして商號を「五」と稱呼し本港著名の藥舖なり
同舖は内外諸國の藥品は悉く完備して餘す所なし故に本港内外藥品の業にあるもの其數數多なりと雖も皆同舖より(卸部は隣店十八番地なり)供給販賣するが故に顧客多く日夕殆ど間斷なく繁昌を極め其賣高の如きは優に全道に匹敵するものなし
同舖は内科、外科、眼科、齒科等必要の諸器

大町

械其他醫療附屬品として消毒材料品種々ガ
ゼー、脱脂綿、海綿、氷嚢、乳呑器等に至る
迄何れも最新の發明に係る精良無比の舶來品
をのみ取扱ひ各専門諸家の需用に應ぜり
同舖は能く仕入に注意し薄利を旨とし専心誠
實以て客に接するが故に本港多數の同業者中
に在て毎に優勢を占め商況の隆盛を來たす所
以のもの偶然に非るなり

○刈松居吳服店

(寫眞版参照)

大町に二層樓の大厦なる土藏見世はと人口に
上り人目を惹きつゝあるは是れ則ち合名會社
松居吳服店にして商號は「金久」と云ふ

四四

同店營業の種目を列擧すれば左の如し

- 吳服太物洋反物類
- 露西亞更紗直輸入販賣
- 助六裏地北海道發賣元
- 村井カタン絲特約北海道一手販賣
- 常盤織製造發賣元

吳服太物洋反物類は各産地より輸入し物品の
豊富なる珍奇の種類多く能く時勢に適せる品
質を精撰し確實にして價格は極めて廉價に正札
を付し販賣する當港第一流の老舗なりとす
露西亞本國より直輸入する同國更紗は区内顧
客の信用厚く販路益々擴張せり又當港の各
商店も同店よりこれを仰ぐ
助六裏地及村井カタン絲は各製造本舗と特約

を結び本道の各地へ之を頒つ
同店製造の常盤織は品質堅牢變色なきため需
用者特に多し

當港一般の商況は日に月に隆々として大に舊
時の面目を改めしと共に各自の競争は勢の免
れざる處なるを以て同店の如きは能く仕入元
に注意し薄利を旨とし専心誠實を以て客に接
するが故に此の区内多數の同業者中に在て毎
に優勢を占め日々雜踏を極めつゝあるなり

○北海道機械網株式會社

(寫眞版参照)

北海道機械網株式會社は大町基坂の右角にあ

有名なる商店の案内

四五

り同會社は特許網編成機を以て漁網を製造し
て之を販賣し其他漁具一切の販賣及販賣の委
托を受けるを以て目的とす
同會社の製品は品質を精撰して實利實益を主
と爲し價格を低廉に販賣して効用の普及を圖
るため本道各地の漁業家及商店は皆同會社よ
り供給す
故に同會社の營業は需用供給の兩間に立ちて
其聯絡を親密ならしむ其經營苦心なるは實に
豫想外にありと蓋し同社の如きは營利以外に
於て尤も商業に忠實なる者と稱するも不可な
きなり而して其資本金は拾五萬圓にして東京
市本所區柳原町三丁目十九番地に支店を設け
益業務の擴張を圖れり其重なる役員は左の如

大町

取締役社長 笹野榮吉
 常務取締役 末富孝治郎
 取締役 廣谷源治
 同 辻 快三
 同 内野 高吉
 同 内山 吉太

○旭吳服店

(旭熊太郎氏)

金、旭吳服店は大町三十四番地に在り商號は「金ヤ」なり
 同店は吳服太物類を販賣するを以て營業とし年來取引の確實なると業務に勉強なるを以

て信用を博し益々商運の隆盛を見るに至れるは實に同店の爲に賀すべきなり

四六

○關商店

關商店は大町三十五番地に在り商號「山々」と稱し左の商品を販賣す
 各國産陶磁器類和洋木箸箸箱類仙臺名産埋木細工物類
 同店は陶磁器等の産地なる美濃、名古屋、加賀、伊萬里、四日市、石見、淡路、錦水、出雲、京都、肥前、會津、相馬、東京、明石、信樂、三河、常陸等の各商店と特約を結ぶ埋木細工物に對しても仙臺より直ちに輸入す

其販路に至りては本道各地は勿論青森南部秋田若くは露領浦鹽斯德サガレンカムサツカ等に輸出す同店は斯く販路を擴張せる所以のものは商品の豊富なると正直勉強とを以て稱せらる尤も信用ある陶磁器店なればなり

○澤口庵

澤口庵は大町五番地にありそばやを以て有名なり

○菊泉堂奥山商店

大町二十七番地に在り「三」は商號なり酒類醬

有名なる商店の案内

油味噌和洋酒瓶詰鐘詰類を販賣し同町日本長酒店と並列して酒舖中に羽翼を張り其販賣高優に醸造家を凌駕し傍觀者の我々共迄にも其勉強なるを感ぜしむ

○藤井支店

藤井支店は、大町十八番地に在り商號は「山形」にして各國陶磁器類を各産地より直輸入販賣し尤も信用ある商店なり其種類は左の如し

- 美濃焼 尾張焼 萬古焼 會津焼
- 信樂焼 肥前焼 京都焼 淡路焼
- 相馬焼 九谷焼

四七

其他諸國銘産陶磁器類一切

○三藤井商店

藤井商店は、大町にあり、海陸物産、昆布、問屋にして通稱(びん利)と商號を「金三」と稱呼し有名なる商店なり

末廣町

○株式會社百十三銀行 (寫眞版参照)

株式會社百十三銀行は、末廣町十四番地に設置せらるる位置は、本港樞要の地にして、東濱町より

八幡坂に向つて右側にあり、前掲寫眞版の示すが如し、抑も同行設立の濫觴たるや、實に明治十一年七月、國立銀行條例に基き、主務省の認許を得て、同十二年一月、第百十三國立銀行として一般銀行事業を經營するにあり、而して三十年七月、國立銀行營業滿期前特別處分法に依り、會社登記の變更を受け、商號を株式會社百十三銀行と改稱し、爾來營業を繼承し、支店は、東京及小樽に設置し、其他三府を初め各地に爲替取引の約定店あり、専ら顧客の便利を計れり

資本金高は、設立の當初、拾五萬圓なりしを、十三年一月に至り、五萬圓を増資し、貳拾萬圓とせしが、漸次業務の擴張に連れ、三十年七月、參拾萬圓及三十二年五月、五拾萬圓を増加し、現在、資本高

監査役 小川幸兵衛

○井合名會社函館支店 (寫眞版参照)

今井合名會社函館支店は、末廣町南部坂の右角にある、宏壯なる土藏造りなり

同店は、吳服、太物、及舶來雜貨の二種に區分し、右を吳服、太物店となし、左を舶來雜貨店と爲す、而して別に、南部坂の方を、吳服、太物の卸店と定む、商品は、重に、東京、大阪の仕入店、及有名特産地より、直輸入して、概ね完備せざるはなく、殊に、精撰に、精撰を加ふるが故に、其品質の精良、確實なるは、言を俟たず、品種の豊富なるは、又驚くに堪へたり、而して、商品は、悉く正札を付して、一厘一毛

壹百萬圓なり

重役は左の諸氏にして、何れも本港有力なる知名の人士に當り、能く其職責を盡し、行員亦熱心と勉強とを以て、事務に軌掌し、基礎倍々鞏固に、業務益々盛大に、赴き、特り、本道第一位の銀行に、背かざるのみならず、又全國に於ける優勢なる銀行として、算せらるるに至れり

- 取締役頭取 田中正右衛門
- 取締役 杉浦嘉七
- 取締役 渡邊熊四郎
- 取締役 相馬哲平
- 取締役 鈴木重恒
- 監査役 廣谷源治
- 監査役 遠藤吉平

有名なる商店の案内

末廣町
も掛引を爲さず之れ實に同店の特色の一とし
て他に誇る所にして地方顧客の信用を得たる
も實に此處に存すると云ふ
而して同店は例年一月夏期冬期と賣出すを以
て常例となせり此時の光景は實に一奇觀にし
て末廣町の往還は一時往來を杜絶せらるゝに
至り老幼婦女の輩は肩摩轂擊の間に呻吟しつ
ゝ終に空しく歸る者あるに至る
同店は誠實と勉強とを以て夙に江湖の信用を
博するが故に店頭何時も雑踏を極め敏活と熱
練とを以て鍛へ上げたる店員も時に或は應接
に遅あらざる景況なり其賣高の如きは優に本
港に冠たり今販賣の品種を掲げ以て其一斑を
紹介せん

五〇

- 呉服太物
- 諸仕立物
- 洋小間物
- 洋服地及び新調

○井樋口呉服店

(寫眞版参照)

同店は通稱を井桁と唱ひ区内の樞要地たる末
廣町十字街に在り多年呉服太物洋反物類を販
賣し來り区内屈指の老舗なり
同店は卸部小賣部を分設し卸部は十字街より
恵比須町へ入りたる方であり区内は勿論遠近
各地の商店へ卸賣を爲す小賣部は即ち十字街
角なり其盛大なる区内比肩する者なしと聞く
同店に陳列場あり最新なる流行品は各店に先
鞭陳列して需用者の便利を圖る蓋し函館に於

ける、吳服太物商の陳列場は同店を以て嚆矢と
す
其華客に對する懇切と鄭重を旨とするが故に
店頭日々雑踏し殊に例年賣出しの際は警官の
保護を受けつゝあるの光景を呈せり
殊に同店の特色たる各生産地と特約を結び其
産出に係る物品は各々充分なる調査を遂げ最
も品質善良にして染色堅牢なる總て時好に遅
れざる珍柄の撰擇に意を用ひ極めて廉價に正
札販賣の主意なれば隨て繁榮を招くに至れり

○町小川商店

(寫眞版参照)
小川長之助氏

小川商店は末廣町の中央なる緑坂(俗に甘間

有名なる商店の案内

坂と云ふ)の左角屋上と軒頭とを問はず燦爛
目を奪ふ如き多數の金字入看板を掲げたるも
の是れなり

同店は商號を「町」と稱呼し其名高し其營業種
目は靴、鞆、馬具、毛判、製革、毛皮、革細
工一式なり
同店は當港は勿論全道革商の元祖にして同店
製造に係るものは堅牢なるを精撰し實用向一
方の製品を備ふるが故に需用の増加と共に多
額の取引あり加之廉價と勉強を以て多年得意
先の信用を博したれば何時も取引の繁忙なる
商店にして本港著名なる老舗なり

因に誌す 同店は靴馬具の本道に於ける製
作者の元祖として毛判の發明者として特に

五一

末 廣 町

賞揚す

又音羽町製革所なるもの明治十二年開拓使より拂受け今尙ほ盛大に行ひつゝあり斯業の熱心家として茲に紹介す

○重松支店

重松支店は末廣町十四番地に在り商號は「丸キ」にして和洋鐵物卸小賣業を營む本店は播磨國三木町ノ内福井町に在り
同店の重なる商品は前挽鋸手曲鋸大工道具銅眞鍮器具鐵打刃物諸鑄物農場用具漁場用具土工用具洋鐵丸釘其他金物一式なり
同店は明治十八年創立以來時勢の進歩に伴ひ

五二

組織の上に改革を行ひ専ら卸賣に重きを置き舶來品は神戸横濱の商館と特約を結び本邦製産物に對しては本店所在地及全國樞要の地に製造工場並に任入店を設け品質を撰擇し實利主義を旨とし勉めて低廉に販賣するの方策を採れり
建築土木、工業、漁業、礦業、農業等の用品及銅眞鍮鑄鐵製鐵打物其他金物中に於て新規形替又は緊急を要する品物の調達は能く期限を誤らぬ様需用者の便利を計れり
故に日を追ふて顧客増加し販路を本道各地及奥羽地方にまで及ぼし信用の度を高め各地よりの注文非常に多く日夕殆んど間斷なきの姿勢を呈し本港屈指の金物店なり

因に誌す 同店は明治二十五年八月北海道物産共進會に自製の手曲鋸を出品せしに製作良好眞に使用に適せりとの旨を以て有功褒狀を授與せられたり

○盃 屋

盃屋は末廣町龜田屋小路にあり木杯瀬戸盃の彩色及陶器名刺の焼付を營業とす
當港開けてより今日迄同業を爲す者七八軒の多きに上れる事ありと雖も何れも失敗又は轉業を爲して其跡を止めず獨り龜田屋小路に於て之れを見るのみ
主人早川勇治氏は仙臺の人にして彩色焼付の

有名なる商店の案内

術に長じ意匠着色共に毫も間然する處なく其精巧驚くべきものあるを以て年來頗る名聲を博せり特に氏は百折不撓の忍耐力を有す創業以來實に十有五年の久しきを一貫して斯業を守り遂に盃屋なる名稱は人口に膾炙する處となり信用益堅く其範圍は本道各地に普及して自然北海全道盃屋の元祖と賞揚せらるゝに至る賀すべき事なり
然れば本道各地の商店料理店等の進物の如きは一に同店に依るものゝ如し盛なる哉

○内山油店

内山油店は巴香堂と號し末廣町龜田屋小路に

五三

未廣町

在り其營業は鬢附、透油、香油、香水を製造し諸油蠟燭化粧品等を販賣す商號の「巴」は却て人口に膾炙する處なり同店製造に係ることも、ほばき、千世の鬢附巴香油、サラリ香油、梅花香油等殊に巴の花香油及香水は其名最も高し

同店は誠實と勉強とを以て夙に江湖の信用を博し品質の精撰價格の低廉等間然する所なく誠に本港現今の勉強店、流行店として他に比肩すべき商店あらざるなり故に日々の賣出多し製造に忙しと聞く

因に誌す 前掲寫眞版の示す處は巴の花の香油香水賣出の際に少年音楽隊を組織し区内隈なく巴の花の歌を唱へせしめたる時の

光景なり今兒童の記憶する處となり至る處其歌をきく随分面白し左に紹介す

巴の花の歌

開け行く世の人の道
進むを遮る關はなし
發明品の應用と
製造品の改良は
日を追ひ月を重ねつゝ
目出度御世に進むなり
さて巴の港なる
龜田屋小路に名を得たる
巴香堂よりうりだせし
巴の花と名づけたる
上等香油香水は

五四

理學の實驗應用し
經驗茲に年を経て
原料を撰み精製し
芳香優美高尚に
品の割合直が安すく
其効能に至つては
ぬけ毛を止て赤き毛も
墨く烏の濡羽色
薄きを濃くし癖直し
逆上を下げてふけを止め
悪臭忽ち除かれて
蘭麝の香馥郁に
冷しき風のまに〜も
香を送る心地よさ

有名なる商店の案内

彼の恐るべきはげ病
臺灣坊主も何のその
巴の花の特効にて
未發に防ぎ衛生上
効能あまたの品なれば
男女のけじめなく
巴の花を召し給へ
御化粧向に製したる
巴の水の高評は
夏の暑さにあせしらず
巴の雪と同様に
函館山の峯高く
大森濱の果遠く
店の信用諸共に

五五

函館案内

巴の花の評判は
北は千島の果しより
南は琉球臺灣の
遠きに迄も香ばしく
外國までも及ぼさん
さあ奥様も嬢様も
雅かなる殿方も
巴の花の香油を
巴の花の香水を
召して一きは華やかに
なり遊ばして一層の
高き評を希ふ
高き評を希ふ

株式會社函館銀行は末廣町二番地に在り明治二十九年八月の創立にして資本金五拾萬圓積立金五萬貳百圓（明治三十四年七月報告に依る）營業課目は普通貸付金當座貸越金定期預金當座預金別口預金全國爲替手形割引代金取立等なりとす
同行は當地銀行間に於ては尤も新く然れども同行の特色として輕舉忘動猥りに外觀の壯大を尙はず着々として收利の確實なるを主とし其基礎の鞏固正確なること銀行間に於て巔然として一頭地を抽づる者の如し爲替の如き全國樞要の地は取引の設あらざるなく特に手形

株式會社函館銀行

割引の如き勉めて需用の融通を辨じ當港商人の如きは殆ど同行を以て融通の機關と爲す者の如しと云ふ役員氏名左の如し

頭取	廣谷源治
取締役	平出喜三郎
同	辻快三
同	金澤彦作
同	西出孫右衛門
監査役	齋藤又右衛門
同	久保彦助
同	小野秀治郎

有名なる商店の案内

○列齋藤吳服店

（寫眞版参照）

齋藤吳服店は末廣町四十九番地（永國橋）にあり其位置は本港中樞の地にして四通八達の處なるを以て顧客の出入終日其跡を絶たず商號は『金タ』なり其營業品の重なる種類を列舉すれば

- 絹織物類各種
- 京都西陣織物類
- 桐生足利八王子織物類
- 木綿織物類各種
- 和洋フランネル類各種
- 絹絲組物類各種
- 仕立物及蚊張類各種

函館案内

自設工場特製品各種

等にして明治十六年より東京下谷區に仕入店を設置して精良優美の流行品を蒐集に勉め又同市本所區に機場並に染工場を設けて世間無比の精良品を製造し就中羽雙子縞の如きは博覽會共進會等にて數度の有功賞を得品質の佳良なる夙に購客の賞賛を博し名聲特に高く販賣の數隨て頗る夥し其他各産地に特約店も亦尠からず營業の方針は誠實を旨とし廉價を以て數をコナス的主義なれば日に月に商運隆盛に赴き實に當區に於ける流行店として本港四大呉服店として賞揚するに至る盛なりと云ふべし

羽鈴木辨藏商店

鈴木辨藏商店は末廣町八十五番地第三坂左角にあり商號は金長(長は草書にて用ふ)營業種類は

綿絲、綿網、北海道製麻會社製漁網、粉澁、岩絲、配繩、越後網、水澤網、マニラロープ、並に麻ロープ、櫻柁繩、柿澁、玉澁、

以上の諸類なり
主人鈴木辨藏氏は陸中國山の目の人なり當港に來つて此業を開く失敗後の經營中々充分ならず不如意の内にも忍耐と勉強を重ね其華客に對するに懇切と鄭重を旨とせしかば今は當港網商屈指の店と稱せられ賣高の如きは優に

第一二を下らざるに至れり

因に誌す 水澤産麻絲麻網の賣弘めは本港に於ては鈴木辨藏氏を以て嚆矢とす

寺井商店

寺井商店は末廣町にあり一を陶器店二を金物店三を漆器店に分つ本港著名の商店なりとす陶器店は尾張燒、信濃燒、肥前燒、京都燒、九谷燒、萬古燒、淡路燒、錦水燒、常滑燒、信樂燒、會津燒、相馬燒、出雲燒、等諸國陶磁器類を販賣す

金物店は内外金物類を一切販賣す

漆器店は諸國漆器荒物類及白耳義國直輸入硝

有名なる商店の案内

子板各種を販賣す

同店の商品は總て各産地より直輸入するを以て其直段も至極低廉にして品質も良好なるより華客頗る多し

菊泉商店

(寫眞版参照 林豊三郎氏)

菊泉商店は末廣町百五番地(日和坂の左角)に在り商號は「同」にして菊泉は屋號なり

同店は當港輸入酒並に醬油罐詰類發賣店中屈指にして灘及中國は勿論各地有名の清酒舉げて同店に在り其販賣額優に當港酒造家を凌駕し人をして酒造家の好試金石と云はしむ亦以て同店菊泉の名聲を知るに足る

末廣町

清酒壘詰は其體裁高尚優美最も進物に適し雪
月花並に旅行等には最上の好伴侶なり今茲に
同店の銘酒を紹介せん

菊泉、金露、正宗、菊千代、千種、
松の賀、大勳位、豊の霞、

以上の諸酒品位の醇良にして而も其香味の卓
絶なるは眞に百薬の長と云つべし

又同店が近年發賣にかゝる陸前國遠田北浦鎌
田常之助氏の醸造醬油常盤なるものは風味の
佳良なるため需用者の好評は区内に充つ
而して同店は区内華客の便利を圖り大町二十
七番地に支店を設け菊泉堂奥山商店と稱呼せ
り

六〇

○常吉崎商店

(吉崎清七氏)

吉崎商店は末廣町八幡坂の角に在り商號を
『山常』と呼び諸國産食料品の販賣元祖として
當港に名高し其營業は各國銘産食料品罐詰、
漬物鯉節等なり

同店は食料罐詰其他販賣品は各國の製造家と
特約を結び品質の佳良なるを撰擇し精品を輸
入販賣す

同店は誠意誠實實利主義を旨とするが故に四
方より信用せられ販路の區域を擴張し店頭常
に華客を以て混雜を極め確實なる商店なり
因に誌す 同店が明治三十三年十一月大日
本農會第三十五回農産品評會及び大日本水

産會第九回水産品評會千葉縣に開會のとき
自製櫻實罐詰出品せしに賞状六等賞を授與
せられたり

○松下商店

(松下熊雄氏)

松下商店は本港樞要の地即ち末廣町の十字街
に在り商號を『入』と稱呼し高等毛皮類賣買を
以て業とす

同店は揚言して曰く

松下商店は毛皮類を海外に直輸するにより
毛皮類賣却の方には取詰め高價に引受くる

その事

松下商店は海外僻遠の地へ人を派して毛皮

有名なる商店の案内

類を買受くるため上等の毛皮を安價に販賣
すとの事

松下商店は製革及毛皮の染色裁縫細工に巧
なる意匠に富める職工を有す故に製革並に
毛皮染方裁縫を望まると方に大安直にて需
めに應ずること

以上は同店の社會に對する責任

然るに同店は三要件を以て商海の羅針盤とな
し實行しつゝありその世評あり故に同店の如
きは羊頭を掲げて狗肉を賣るの奸徒と同視す
べからず

同店が近來非常に優勢を占め日に店頭顧客滿
ちて多忙を極む當港毛皮商の巨擘なり

六一

○藤井南生堂

(寫眞版参照)

藤井南生堂は末廣町函館郵便電信局の隣にあり食料品進物用類の調進を以て夙に其名を博し店頭毎に市を爲せるが如し商號は「○」と云ふ

同店は年來食料品類の販賣を以て營業と爲し卸賣と小賣とを問はず専ら確實と勉強を以て各需用者の便益を圖るが故に取引の手廣きは驚く可き景況にして區内無二の商店と云ふも不可なかるべし
商品は各製出地より直輸入を爲し品質を吟味して極て實用に適し其價格を勉強し如何なる上等品と雖も能く整はざるなく又如何なる並

物と雖も能く備はらざるなし其商品は食料罐詰瓶詰洋酒類西洋菓子罐入漬物類其他珍品柄の進物用各種の精製品を備へ盛に營業に従事するを以て益々隆盛に赴くの觀あり

因に誌す 同店は顧客の便宜を計り進物用に四店共通の切手を販賣す(四店は鶴岡町○そばや沙止町○そばや大黒町○岡田そばやなり)

○笠川商店

(笠川治助氏)

同店は末廣町丸井呉服店の向に在り商號を「△」と云ふ米穀乾物類片栗及肥料粉類の間屋なり

同店は本店横濱市花咲町一丁目にあり又小樽色内町にも支店あり本支氣脈を通じ敏活に商務を裁斷し中々活潑に商業海を游泳しつゝあり當港同業者中の老舗を以て知らる

○坂本商店

(寫眞版参照)
坂本嘉吉氏

坂本商店は末廣町五十七番地に在り商號を「△」と稱し軒頭高く「甘藷、菓實、雜穀、片栗、乾物、鯉節、間屋」の大看板を掲げ一見以て其營業を知るに便ならしむ區内に於て商賣の繁昌と顧客の多きを以て之を同業中に求めれば先づ同店に指を屈すべし
本港繁華の中樞に在りて日夕出入する處の貨

有名なる商店の案内

物は南部津輕より菓實類名古屋大阪横濱よりの乾物類東京各地方より雜穀甘藷鯉節等其重なるものにして又當地附近得意先へ送出する處の貨物は日々幾何なるを知らず之に加ふるに區内所在の料理店飲食店の需用に供すべき小賣向の來客は常に店頭を填む故に偶々此地に遊ぶ者は此光景を目撃して其繁榮に驚く事あり而して同店が商品の新鮮なると比較的價格の低廉なるは需用者の許す所にして又同店の自ら特色とする所なり蓋し商品の新鮮なるは以て顧客の信用を博し價格の低廉は以て商賣の繁榮を來たす所以にして商賣の秘訣も亦實に此處に存す坂本商店の如きは當に能く此の秘訣を會得せしものといふべし

末廣町

因に誌す 同店片栗の販路は東京横濱神戸大阪に輸出し優に他店を壓倒し居るとのことなり

○桐屋商店

(寫眞版参照)

末廣町十四番地に於て桐屋の屋號を用ひ「X」の商號を付したる暖簾を掲げたる商店を新井重吉氏の下駄店と爲す 近時下駄類の嗜好が極めて贅澤になりしは都鄙を論ぜず男女を問はず正に一種の流行と稱すべき有様なるが故に其製作の精巧緻密なるに伴て其價格の不廉なるは實に一驚を喫すべき程なり

六四

然るに同店は木地、表、鼻緒類より雪駄類に至るまで新形、新意匠の品種を仕入れ流行を追ひ時侯に投じ毫も舊習に昵まざる様心を用ふるを以て日常普通の堅牢向より優美高尚の上等品迄非難を加ふべき點なく質朴なる在方のものも贅澤なる通人も競て同店の品を求むるが故に店頭常に好況を呈す 又傘類、其他一切の附屬品類も悉く品質を吟味し在るを以て何人も懸念なく同店に就て購求することを得誠に手堅き商店なりとす 同店は本港内華客の便利を計り工場を船場町に第一支店を逢街仲の町に第二支店を大黒町に第三支店を鶴岡町に置き需用に應ぜり而して其價格は同店特色とする所の大勉強に

して極めて廉價なり爲めに本支店とも日増繁榮に赴けり

○香玉堂藥舗

末廣町二十間坂角に在り和漢洋藥諸名家の賣藥を販賣し傍ら公衆の便利を計り收入印紙郵便切手及鐵道馬車切符を賣捌く同店の女將香中タマ子夫人自ら店頭にありて諸事を便務し親切丁寧なる他店の及ばざるなり香玉堂の稱あるは女將の姓名に據りたるならんと想像す

○藥舗鎌田衛生堂 (鎌田莊八氏)

末廣町第三坂左角を見れば屋上と軒頭とを問はず種々なる看板を掲げたる商店あり鎌田衛生堂と云ふ藥舗則ち是れなり 同店は商號「田」と云ふ和漢洋藥を専業となし衛生化粧用あれしらずの本舗なり 同店は東京大阪外諸國の有名賣藥は勉めて實効の確實顯著なるを競ふて蒐集販賣し世人を益すること尠なからず爲めに大に信用を博し居れるなり

有名なる商店の案内

六五

函館案内

○加藤商店

(寫眞版参照)

本港唯一の時計店として業務の隆盛なる販路の廣大なる同店の如きは区内稀なり實に同業者中に在て嶄然として頭角を顯はす者と云ふべし

同店は末廣町七十九番地に(丸井呉服店の側)に在り時計類及附屬品並に時計修繕用具指環眼鏡寒暖計類等の卸小賣を爲し品質に應じ確實なる保險證を付し猶熟練の職工を使用して時計を修繕し傍ら兩換をも業とす
近時時計指環其他の裝飾品が新形と云ひ新意匠と稱へ互に競ふて流行を作り嗜好を惹き或は優美高尚に或は瀟洒風流に幾多精巧美妙の

製品を出すに依り同店は常に此貴紳淑女が交際場裏の花とも稱すべき優等品より實用專一の堅牢品に到る迄其種の數を知らずと雖も悉く之を具備して以て顧客不時の需に應ず其規模大なりと云ふ可し
殊に同店は横濱神戸の各商館及内地製造發賣元は其何れを問はず手廣く取引を爲すが故に其豊富なる商品は燦爛なる殆んど眼を奪ふの觀あり

○田武支店

(寫眞版参照)

田武支店は末廣町一番地にあり海産物、肥料、雜穀の委託販賣を業とす

○健全舎兼村商店

健全舎兼村商店は末廣町八番地(棧橋より末廣町に通る處の右側)に在り帝國陸海軍、英獨兩國海軍御用達及食料品賣込商を爲す傍ら土木建築請負をも兼ね行ひ確實なる信用のある店なり

○甚鹽谷商店

(鹽谷甚右衛門氏)

鹽谷商店は末廣町十字街に在り内外煙草問屋を以て當港に知らる山甚は商號なり故に山甚の煙草、煙草の山甚として店頭常に顧客山をなす

函館案内

同店は規模頗る大にして本店は伊勢國四日市濱町に在り東京深川區小松町は出張店なり同店は海陸物産に關する賣買取引は一切之を取扱はざるなし故を以て其取引先も隨て廣く毎年海産の時季に當りては各地よりの電報織るが如く來り又當地仲買商人等悉く同店に入し其繁忙なる一見其繁に驚くものゝ如し然れども業務に忠實なる店員はよく懇切に丁寧之を處理して一の遲滞もあるを聞かず
同店は本港同業者中の屈指にして確實なる商店なり

○金菊池治平支店

山、菊池治平支店は末廣町十九番地に在り雜貨、荒物、割竹、筴類を販賣す。同店は勉強と低廉はよく顧客の意を迎合確實なる商店なり。

○都庵

都庵は末廣町三番地にあり會席料理仕だしを以て有名なり客室の清潔なる料理の嶄新なるは同店の特長なりとの評判なり。

○三平田商店

平田商店は末廣町十番地にあり和洋建築鐵物商を業とす本道著名の商店にして「金一」は商號なり。

○九加藤商店

加藤商店は末廣町九十四番地に在り和洋小間物類を販賣し九九は商號にして同業者中屈指の店なり。同店は煙草入、烟管、烟管筒、緒、金具、紙入等西洋小間物の各種類に就て極めて優美なるもの、高尚なる物、堅牢なる物を撰み新形

新柄、新流行、新意匠の美術的袋物類を仕入れて所謂持物道樂の贅澤品より或は丈夫向一方の並袋物迄同店に至れば即ち其用を辨せざるなし殊に他店に匹敵して價格の低廉を主とするが故に遠近の華客より續々注文に接し日々繁昌せり。

○愛新軒

愛新軒は末廣町八幡坂の右側にあり全國新聞雑誌を販賣する老舗なり。

○三ッ谷鐵物店

三ッ谷鐵物店は末廣町八十三番地にして商號

有名なる商店の案内

を「金」と稱呼し和洋鐵物卸小賣の傍ら度量衡を販賣す當港著名の鐵物商店なり。同店の商品は各産地著名の確實なる商店と特約を結び又神戸横濱等の商館と特約を結ぶ等仕入元に注意を加ふること尋常一様にあらずれば其品質の善良なるを以て世人に信用を博する處なりとす。卸賣取引は本道各地及青森秋田等に及びて甚だ手廣く確實を主として怠らざれば次第に信用の地を堅ふし其範圍を擴張しつゝあり小賣は又其任ずる所にして優物多くして他店に譲らず總て確實を專一として低價に販賣せり。

○羽田商店

羽田商店は末廣町三十一番地にして商號を『司』と云ひ専ら漁網類の卸小賣を以て營業と爲し年來尤も誠實を旨として商賣に熱心なるに依り顧客の間に其信用を博し北海道沿岸需用者の増殖に隨ひて漸次商勢の繁昌を來らし今や益々販路の膨大するを見るに至れり同店は各地有名産地より輸送する網絲類及本道より産出する所の麻網類のものは總て之れを蒐む其種類を擧ぐれば
東京平賀製綿絲綿網大販賣
北海道製麻會社製漁網函館一手販賣特約
粉澁全道一手販賣特約元

岩絲配繩用網絲類
越後網並に水澤網各種
マニラロープ並に麻ロープ
櫻栂網及柿澁玉澁類

以上の類にして就中東京平賀製綿絲網北海道製麻會社製漁網の大販賣を爲すを以て總ての漁網類等は之を扱かはざるなく能く需用家の意に適する様勉むるが故に漁期盛時に當ては其繁昌は實に豫想の外に在りて當港に於ける著名の網商店なり

○内國通運株式會社

函館支店

(寫眞版参照)

内國通運株式會社函館支店は大町二十四番地

○池龜印舖

同店は末廣町(龜屋小路)に在り印刷版木彫刻朱肉黒肉販賣引札名刺印刷を業とす
同舖は職工の熟練なるものを有するためと期日を過らざるを以て華客の信用を博し益々隆盛に赴きつゝあり

○仲村商店

(仲村金右衛門氏)

仲村商店は末廣町百一番地にあり和洋煙草、各國諸紙、砂糖類、蠟燭、素麵、白玉粉、大阪銘酒、白絞油、燐寸等を販賣す本港著名の商店なり

に在り

同所は本港繁盛の區域にして末廣、地藏、鶴岡、船場、汐止、豊川、辨天、大黒等の諸町を左右に前面は東、西、仲の濱町と幸町ありて貨物を集散する上に於て其位置が好適所なり
故に同支店は顧客多く其繁雜熱鬧殆ど名狀すべからず出るもの入るもの等ありて一見其煩に堪へざるの觀あり
然れども同支店長小林吉十郎氏店務整理に富み加ふるに業務に堪能なるの店員は能く瞬時に之を處理し停滯踟躕せしむることなく機敏と熟練とを以て常に顧客の稱揚する所となるは確に當支店の特色として誇るに足るべし

有名なる商店の案内

末廣町

同店の位地は本港繁華の區域に在るを以て總ての商品賣行き宜く他の遠く及ばざる所なり而して同店が仕入に對しては平常心を用ひ品質を吟味し在るを以て何人も懸念なく同店に就て購求することを得誠に手堅き商店なりとす故に區内幾多の需用供給者は勿論本道各地に顧客を有するなり
同店は價格を低廉に勉強販賣は特色にして江湖に信用を博するも其處なり而して商號は「イ」印と稱呼す

○開通堂

(寫眞版参照)

開通堂は和洋菓子類製造を以て有名なり末廣

七二

町二十間坂下に在りて創業以來實に四十餘年の久しきを一貫して菓子製造に従事し商號は「丸」と稱呼す區内幾多の同業者ありと雖も眞正なる老舗は同店の右に出づるものなかるべし

同店は始め麵麩菓子の製造を爲す是れ抑も北海道に於けるパン菓子製造の元祖にして爾來斯業の進歩を圖り昆布菓子、蒸菓子、餅菓子、羊羹、煎餅、落雁、カステラの各種類を製造し其風味の高尙なる優美なるは他店の遠く及ばざる所なり

而して當店主輕部寅吉氏は菓子製造の術に長じ年來頗る聲名を博す又熟練なる職工を使彼するが故に其意匠精巧風味優美高尙なるは特

に同店の得意する處なり
然れば遠近各商店料理店等は一に同店の製品に依らざるはなしと云ふ其隆盛なる推して知るべし

○河島谷商店

(島谷安三郎氏)

島谷商店は末廣町綠坂(俗に廿間坂といふ)の角にあり燐寸軸木、酒類、片栗粉、海陸産物を販賣し商號は「山形に河」なり
酒類は大阪、堺、灘、軸木、片栗粉は北海全道又は陸奥地方より輸入す

同店製造の片栗は品質佳良なるを以て明治二十五年北海道物産共進會に出品せし折には特

有名なる商店の案内

に褒状を授與せらる又明治二十八年第四回内國勸業博覽會に瓜哇薯澱粉及燐寸軸木出品せしに是れ又褒状を授與せられたり故に其名聲高く隨つて販路も擴張し神戸、大阪、東京、伏木、金澤等に普及し日々の製品其需めを充すこと能はざる場合もありと聞く
又銘酒春駒及其他の酒類柑橋類は本道各地に輸出して高評を受く
同店は一時の名利を貪る如きことなく誠實勉強を主眼とするが故に日々顧客増加し隆大の域に進みつきあり

七三

○正旅館

壯麗なる三層樓上筆太に中島屋と云ふ屋號を記し四通八達なる天然の便利なる東濱町棧橋前に建築を構ひ常に旅客充滿して雑踏を極め繁昌しつゝあるは云はずして誰れも知る當港有数の丸正旅店なり（これは町名番地は末廣町八番地なれども地勢は東濱町棧橋前と稱する方適當ならん）

○今市商店

（寫眞版参照）

今市商店は末廣町にあり本道に於ける著名の老舗なり店員の親切丁寧なるは世の人の知る處なり商品は

- 毛布類
- 洋傘類
- 靴各種
- 帽子
- 食料罐詰
- 噺器
- 洋小間物類

○平田東店

平田東店は末廣町十一番地にあり度量衡鍋釜を販賣する商店にして商號は「金一」なり

○金森商店

（寫眞版参照）

金森商店は末廣町にあり洋物類を販賣す同店は本道著名の洋物店にして其品種を擧ぐれば西洋小間物類、洋服附屬品各種、新形帽子、其他各種、和洋メリヤスシャツ類、和洋毛織物各種、靴各種、鞆各種、毛布、肩掛品、洋服新調、其他流行の新柄珍柄各種、以上の數種にして商品の豊富なる店員の親切丁寧なる流石本港の老舗として耻ぢざるなり

○逸見商店

人若し函館に於て砂糖麥粉卸小賣商の中に就て其最も業務の盛大にして且つ取引先の區域廣大なる商店を問はば誰れか久上商店を推さざる者あらん同店は當港同業者中の老舗たるに耻ぢず其商號は「久上」と稱呼して其名高し而して同店は末廣町八十四番地に在り砂糖麥粉菓子同店專業の商品にしてハウル社と特約して直取引を爲し其數量の多大なるは同業者中多く其比を見ざる所なりとす販路は青森秋田釧路根室等に亘り殊に當港の菓子製造業者が使用する原料砂糖類の如き過半は同店の供給に係らざるなし故を以て店頭は毎

に貨物輻湊殆と間斷なく其繁盛の狀は筆紙に盡くし難し
賣品は尤も精良の品質を撰み確實と勉強は世間已に公評あり今又茲に贅せず

地藏町

○金子商店

(寫眞版参照)

金子商店は地藏町四十四番地に在り商號を『大丸』と稱し煉化石、屋根瓦、網足、土管を製造販賣す工場は龜田郡龜田村大川通三番地にあり
故金子利吉氏は本港に於ける瓦製造業者の元

祖にして嘉永年間上磯郡茂邊地村に於て原料に使用すべき土あるを發見す當時幕府は同所へ道心長屋なるものを建築するの舉あり氏夫れに參與して該長屋に使用すべき屋根瓦を引受け直ちに製造に着手す是れ本港に於ける瓦製造の嚆矢なり爾來切嗟琢磨して今日に至れるを以て當店主金子孝太郎氏も先代の遺志を襲ぎ内地各地を巡視して事業製作上の事を探究す氏温厚にして實直なり
故に製作の上にては能く注意し粗製濫造の弊を矯む是れ信用を博する基固なり工場の整理は氏の經驗より成りたるもの故具備せざるなし加ふるに職工の熟練なるあり兩輪相備ふ同店の製品は能く區内は勿論全道各地の當港

の名寺高龍寺、淨玄寺、願成寺、稱名寺、實行寺、湯殿山等は皆同店の瓦を用ゆ其他北海道各地幾多の需用者より歡迎せられ日々全道各地の製品其需めを充すこと能はざるを恨み益々業務を擴張せんと計畫しつゝあるなり氏の如きは斯業に忠實なりと稱するも敢て過稱に非ざるべし

因に誌す 故金子利吉氏は公共事業に對し不尠公勞あるを聞く他日を待て其治蹟を紹介することあるべし

○有江商店

有江商店は地藏町四十九番地に在り商號は

有名なる商店の案内

○山口商店

『丸ア』と稱す
同店は和洋諸鑄物諸器械製造を業とし丸ア印改良硫黄製煉釜は鑄造元なり工場は東川町二百十九番地に設け盛大に行ふ確實なる商店なり
山口商店は地藏町六十番地に在り『丸山』は商號山繭紬を商ふ本港廣しと雖ども一の商品を以て巍然として立つものは同店を措て他に非らざるべし是れ本港やままゆ紬の元祖なり産地は廣島にして地質堅牢使用上久しきに耐ゆ模様は嶄新變色なく價格低廉にして見榮よく

地蔵町

いづれよりするも經濟上に便益を得る品物特に小兒着などには至極適當の品なりとの高評を受け日々數十の客は引切れざるなり

○樹旅館

井桁矢旅館は通稱井桁屋と呼ばひ地蔵町六十一番地丁字街より入口に在り近年の開業なれども同館の主人はよく事理に通曉し居るを以て取扱の親切なると勉強なるとに依り日々繁昌し益々隆盛に趣けるなり又公衆の便宜を計り日本郵船會社の乗船切符をも賣捌くと云ふ

○木下商店

(寫眞版参照)

木下商店は地蔵町五十六番地にあり和洋小間物、新形流行品各種、有名化粧品類、内外石鹼各種、並にタオル類、仕立物足袋類の卸商を以て本港に於る著名の商店なり商號は「木」と云ふ
同店卸小賣の品物は店主自ら品質の仕入に注意し價格の低廉を旨とし時好に投じ流行を追ひ新形珍柄の各種類を他店より早く賣出し等何時も機先を制し専ら着實に營業に従事するを以て区内幾多の需用者は勿論本道各地の商人の便宜も尠なからず隨て此店に歩を移すもの頗る多く當港多數の同業者に在て常に人後

に落ちざる極て評判の良小間物問屋なりとす因に誌す 同店は朝日デンワ石鹼の發賣元なり

○藤川商店

(寫眞版参照)
藤川佐兵衛氏支店

藤川商店は地蔵町六十一番地に在り(俗に云ふ地蔵町丁字街角)茶、茶器、酒類の卸小賣を爲す商號「茶」と稱呼して有名なる商店なり同店は江州藤川氏の支店なり茶は本店自製の者と宇治より酒も又本店醸造の者と攝州より茶器は京都及東京大阪等より何れも直輸入す銘茶類及酒類の營業を爲す者當港其數甚だ尠なからず而して其商業上互に相競争し各品質に價格に精撰と勉強を以て多數需用者の愛顧

有名なる商店の案内

○本間商店

(寫眞版参照)

を貰はんとする點に於て或る一二商店と甚しき徑庭なく互に伯仲の間に在るの有様なりと雖も藤川商店の如きは正に一頭角を露したる者と云ふべし故を以て品質の精撰にして其價格の至廉なる多辯を要せざる所なりとす故に販路は区内は勿論遠く青森秋田及全道各地に輸出せり
同店は誠實誠意勉強を旨とするがためよく實用に適するとの高評にて華客日増々加し優に老舗を凌駕せり

本間銅器店は地蔵町に在り「丸本」は商號なり

地蔵町

店主本間與作氏多年銅器製造の業を営む工場（せいり）の整理行届きて間然する所なく熟練の職工を多く使役して改良澱粉器械、銅器改良風呂釜（衛生無害但錫掛け）唐金眞鍮類飲食器を製造し販賣する區内屈指の店なり特に改良澱粉器械製造は同店元祖なるを以て區内澱粉製造者は多く同店より之れを需む製作の精巧なると堅牢なるは全く器械の準備と職工の熟練とに依るものにして大に世の好評を博す

因に誌す 明治二十五年北海道物産共進會に同店製造に係る藥罐及馬鈴薯澱粉器械出品せしに有功褒状を下付せられたりと云ふ

丸善菅谷商店

（寫眞版参照）

菅谷商店は地蔵町五十七番地に在り當港廣しと雖ども丸善菅谷と言へば三歳の童子も知る本港著名の酒類醸造家なり丸善は商號當主人菅谷善司氏事理に通じ性温厚にして質朴實業家の要素天然に具ふ

其醸造法の嚴正にして器具器械の完全せるは誠に多年の成績に依りて生み出されたるものにして銘酒菅の井の醇良なる其風味の高尙なる均しく多年の經驗に依りて得られたる同店の特色にして世の好酒家の賞賛措かざる所なり醸造場は當港音羽町六十四番地に設く銘酒菅の井を各地博覽會に出品し有功賞を受

領する屢々一枚擧して江湖に紹介せんと思へども紙數限りあるを以て略す本港同業者の興廢常ならざる中に立ちて特り同店の能く久しきを守り益々業務を擴張し隆盛を致す所以のものは自ら深く據る處なくんばあるべからず他なし熱心誠意以て任ずるの結果なりと然れば其製造高も年々増加し本港醸造家の巨擘たり

峯友烟草店

峯友商店は地蔵町北側二十七番地にあり商號を『峯』と稱し和洋刻巻烟草の卸賣を以て專業とす

有名なる商店の案内

進藤商店

（寫眞版参照）

同店の商品は總て各產地製造元より直接輸入なるが故に其品質の良好なると價の至廉なるは同店の特色なり就中阿波刻烟草三安印は色澤香味共に佳良にして能く當地需用顧客の嗜好に適し其賣行非常に盛なり

殊に同店は常に顧客に接するに専ら誠實と勉強を主とするが故に信用益々厚く各地取引先よりの注文日々に頻繁にして店頭常に忙しく將來有望の商店なり

進藤商店は地蔵町八番地にあり其營業は和洋鐵物類の卸小賣を爲す商號の『司』は却て人口

に膾炙する處なり

同店商品の重なるものは前挽鋸、手曲鋸、大工道具、銅、眞鍮器具、鐵打、刀、物、諸、鑄物、農場用具、漁場用具、土工用具、洋鐵丸釘、其他金物類一切にして舶來品は神戸、横濱の商館と特約を結び、本邦製産物は各産地の商店と特約を結び、て良き品を安

すく賣出の法を採れり
同店の販賣品は品質善良堅牢なるを以て需用供給の兩者より賞賛を博し、當區内は勿論遠く釧路、根室、青森、秋田等の方面へ輸出すと云ふ而して商品の何たるを問はず、何れも其價格を低廉にして能く顧客の便益を計るは、同店年來の長所として稱するに足るべし、其着實と勉強とが尋常普通と異なる丈夫れ、丈信用の愈厚き

を加ひ店頭何時も雜踏を極む同店の如きは當港同業者中の巨擘と稱するも敢て過言にあらざるべし

○松 千葉商店

千葉商店は地藏町尾鶴岡町界に在り商號を「丸松」と稱ひ同町屈指の雜貨店にして其品種は擧て數ふ可らず先づ大販賣としては和洋酒類、和洋砂糖類、食鹽、煙草、石油、味噌、醬油、罐詰類等にして其他の雜貨は堆積殆ど山を爲し日用必需の物品は總て扱はざるなき商店なり當主千葉松次郎氏常に流行の推移に注意し又能く機先を制する眼光を以て商品の

精撰を期し勉強低廉に販賣するに依り顧客の信用あること夥し

故に華客の同店に歩を移すもの頗る多く能く繁昌する商店として評判高し

○金田一藥舖

(金田一健次郎氏)

近世醫學の進歩に伴ひて醫藥と謂はず賣藥と謂はず將又滋養品と謂はず何れも専門の學士博士に就て其蘊奥を研究し泰西の藥料を配劑して以て藥物生理に適應すべきものを調製し勉めて實効の確實顯著なるを競ふが故に衛生上に及ぼすの効果は頗る見る可き者あり
地藏町六十六番地に軒頭種々の看板を掲げ通

有名なる商店の案内

○伊月商店

(寫眞版参照) 伊月三郎氏

伊月商店は地藏町丁字街角に在り商號を「伊」と呼び洋物小間物類を販賣す近時洋物小間物類の流行は新形珍柄に意匠を凝らし美術的製

作を重とするに因り伊月商店は大に注意して能く流行の品種を仕入れ總て時好に適し好評を得就中メリヤス類各種新形流行帽子等より流行化粧品石鹼齒磨類に至る迄品物を吟味し以て價格を廉にし勉めて來客の意を邀ふるが故に便利至極の商店なりとの高評なり

○平田支店

平田支店は地藏町十一番地にあり度量衡販賣鐵物店なり末廣町金二の支店にして商號は金二なり

豊川町

○父森商店

(森嘉美太氏)

森商店は豊川町にあり海陸物産委託賣買日清貿易品の受托を專業とす
同店は商號を「山形に久」と稱し當港海産業者中屈指の商店なり

○柿崎商店

柿崎商店は豊川町二十一番地に在り和洋酒煙草其他雜貨類を販賣し傍ら築城部函館支部及

函館陸軍兵器支廠の御用達を爲す勉強の店なり

り信用せらる

○吉田商店

吉田商店は豊川町五十一番地に在り諸乾物各罐詰紙の卸賣と諸帳簿紙袋類の製造を爲す傍ら砂糖菓子袋のし水引等を販賣す同店は多年該營業を爲し居る故に華客多く確實なる商店なり

○佐々木商店

(佐々木秀雄氏)

佐々木商店は商號を「金秀」と呼び萬籠竹を販賣し漁場用の籠を製造販賣する確實の商店にして豊川町二十三番地に在り

○前側商店

(前側末松氏)

前側商店は豊川町二十三番地に在り商號は「丸松」と呼び各國和洋酒雜貨荒物類其他菓實類を販賣し最も確實の商店なるを以て四方よ

○長島商店

同店は豊川町四番地にあり營業は日清貿易品干魚鹽魚粕肥料米穀食鹽類の委託賣買にし

有名なる商店の案内

て商號は九三ツ鱗なり

豊川町一番地にありて需用供給を充せり

○岡商店

(岡喜一郎氏)

同店は豊川町一番地にあり海陸物産委託賣買業として當區確實なる商店にて商號は「角キ」なり

○藤堂商店

同店は豊川町にあり海陸物産委託商を業とす商號は金丸にして確實なる商店なり

○佐野支店

(寫眞版参照)

佐野支店は本店醸造の醤油を販賣する處なり

○池田鐵工場

(池田勝右衛門氏)

池田鐵工場は豊川町三十五番地に在り商號を「鐵」と唱ひ文政初年の創設にして萬鐵物製造の業を營む實に函館同業者の開祖なりと稱せらる

同場は材料を東京、横濱、大阪より輸入し倉庫用、建築用、鑛山用、漁場用器具、鐵板扉、諸鐵物、諸器具、船釘類等は重なる製造品にして區内及龜田茅部兩郡日高釧路十勝根室後志天鹽北見釧路千島等は同場の華客なり當港數百の鐵工場ありと雖も百事具備しある

ものは僅々二三にして丸き池田は即ち東の巨擘なりと云ふも過稱にあらざるべし而して同場製作に係るものは其精巧と堅牢なるは全く器械の準備と職工の熟練とに依るものにして大に世の好評を博し日々多忙を極め居るも故なきにあらざるなり

○北海商報社

(寫眞版参照)

北海商報社は豊川町一番地にあり北海商報(商事)を發刊し傍ら活版、石版、諸帳簿製本を業とす

北海商報は社主高田安次郎氏の筆に成るものにして氏自ら探海燈となり商業海を游泳する

有名なる商店の案内

こと久しきを以て其商況の潮流と人氣の趨勢とを見ること機敏にして正確報導迅速なるが故に常に當事者をして寒心せしむることあり爲めに實業家の賞揚歡迎する處となり今や購讀者は本道及内地臺灣朝鮮米國の實業家に普及し當區同業者中の優勢を占め其印刷高は優に政治新聞を壓す同社は輪轉印刷機手引印刷機數臺を備へ製本器械を具へ熟練なる職工を使役し活版印刷の業に従事せしむ技術の精巧なると印刷の鮮明なるは最も長ずる處なりとの好評を博し日々の注文織るが如し隆なりと云ふべし

鶴岡町

に同店主の實直にして待遇の周到なる原料と職人を東都より呼下し専務に其事に當らしむ是れ他店に多く其類を見ざる所にして世の稱賛も故なきにあらざるなり

○藤井本店

藤井本店は鶴岡町五十七番地に在り生蕎麥を以て當港に名高く商號の(一)は却て人口に膾炙する處にして同店の支店は汐止町の藤井そばや大黒町の岡田そばや末廣町郵電局の隣り藤井南生堂にして共に有名なり
丸一藤井本店は生蕎麥の外即席御料理を兼ね其調理の美妙なる新鮮なるは同店の特長にして同町界限は皆同店による
丸一そばの世間より高評を受くる原因は重

○一眞堂印刷彫刻所

印刷彫刻者間には多く篤實勉強期日迅速を缺くものあり然るに一眞堂はこれを嚴守して及ばざるまでも遂行せんとの看板を掲げたり
余これを試みんと依頼せることあるに勉強の結果迅速に出来彫刻も亦美事なりきよつて看板に偽りなきを證するに足る店舗は鶴岡町四十八番地鐵道馬車停車場前にして一眞堂とい

へば印刷屋なりとすぐ分ります

○千歳商店

鶴岡町二十九番地交番所前にあり和洋小間物其他種々なる商品を陳列し其廉價なるは同店の仕入元を吟味し勉強販賣する處なり特に鐵道馬車割引切符並に月極切符を賣捌きて旅行者の便益を計れり

(千歳常太郎氏)

○村田商店

(村田安次郎氏)

村田商店は鶴岡町十五番地に在り焼麩、晒生麩を製造し卸小賣の業を營む販路は区内は勿

有名なる商店の案内

○安達商店

(安達善治郎氏)

同店は鶴岡町二十八番地にあり商號は『釜』にして萬任立物類にては有名なる店なり

○前澤製造所

鶴岡町三十三番地にあり『丸メ』は商號なり萬

鐵物諸器械を製造し其精巧なるは該所の世評なり

大に信用を博し確實なる商店なり

○川口旅店

川口旅店は鶴岡町六十九番地にあり通稱丸吉と呼ぶ同店主は客に對し親切なるを以て日々數十名の客は下らざるなり

○金谷口商店

(谷口源太郎氏)

谷口商店は鶴岡町三十四番地に在り商號は「山五」と稱す
同店は萬焼、燂、晒、生、燂を製造し卸小賣を業と爲す區内は勿論岩内、壽都、江差、釧路、十勝等の各商店及近海の漁場に輸出し尤も確實なる商店なり

○梅内商店

(梅内久次郎氏)

同店は商號を「山一」と稱し鶴岡町十番地に在り改良の粕舂、漆網、羽、權、類等を製造販賣す
同店は實直にして低廉勉強を旨とするが故に

○富川商店

(富川要太郎氏)

同店の本店は高砂町十四番地に在り鶴岡町六

十八番地は支店なり諸車を製造販賣し「丸富」は其店の商號にして車製造業中信用ある店なり

○函館炭商合資會社

日用品の内一日も缺くべからざる重なる數に入るべき炭も其品の善惡により大に月々の經費を短縮するもの何處の炭やはいたづらなり
ほんにこまると惡評たらぐなる中に貫目もよく炭はよほどの區内一般の高評を受け日増得意を増加しいよ／＼繁昌を爲しつゝあるものは區内鶴岡町十六番地「三ツ鱗」印函館炭商合資會社なりとす其營業は木炭製造及薪なるも重なる商品は楓、吹炭、小ナラ、白炭にして出產地軍川、村宿、野邊、村湯の川村、赤川、村鍛冶、村へ社員を派出してよく品質を吟味しあるとは是れ全區の高評を受くる原因ならん

○池田和洋小間物店

池田商店は鶴岡町十二番地にあり商號「角丸」と呼び和洋小間物類を販賣す
同店は古來同業を營むため仕入元を吟味し品質精良價格低廉にして勉強を旨とするゆゑ大に信用せられ華客遠近より同店を指して來る

若松町

○能瀨商店

(能瀨源三郎氏)

鶴岡町二十九番地交番所筋向角に屋上に丸豊洋傘靴製造との看板は能瀨商店なり「丸豊」は商號にして洋傘靴の製造は原料を精撰し其價廉なるのみならず精品なる此店の右に出づるなしとの世評あり洋傘のはりかへ靴のなほしは特に勉強するとの評判あり

○松井萬籠製造所

萬籠類を製造し地竹一手販賣を兼ね日々繁昌を爲しつゝあるものは鶴岡町七十番地松井萬籠製造所なりとす

九二

同所主松井彌助氏確實なるを以て世に信用を博し勉強と低廉は同所の特長商號は「金イ」なり

○松山商店

松山商店は鶴岡町二十九番地に在り「丸松」は商號にして菓子製造卸小賣を業とし中々手廣き信用ある店なり

若松町

○三田商店

(三田巳藏氏)

三田商店は若松町方面の有力家三田巳藏氏の

店なり店舖は同町九番地に在り雜貨荒物を販賣し傍ら農事改良を企圖しあるもの故農産種苗和洋農具を製造販賣し漸次其目的を達せんとの意ならん實に記者も其企圖に賛成する處商號は「金三」電信略號(ミタ)なりといふ

○飯田商店

(飯田榮次郎氏)

若松町二十一番地にあり諸車並に農具一切を製造販賣して大に當港の信用を博せり特に修繕等の勉強なるは依頼者其者の言なり同店のため賞揚すべき事なり

有名なる商店の案内

海岸町

○諸車製造所

(川口清三郎氏)

同店は海岸町三十八番地に在り「金セ」は商號なり諸車及び萬金物類を製造し頗る信用ある製造所なり

○弘法主治藥湯本店

弘法主治藥湯本店は海岸町十八番地に在り馬車鐵道の便あるため日々の浴客多しと聞き同湯は子宮病、婦人經閉、小便利、癩病、

九三

函館案内

水腫、腰痛、頭痛、腹痛、痲痺質斯、胃病、中風等の諸病には効能顯著なり
同湯の製薬は能登國鹿島郡越路村字石動山竹戸氏の謹製にして日本第一無比なる弘法除治湯なるものなり全道廣しと雖も札幌區に一箇所と當區海岸町にあるのみ當主齋藤多郎兵衛氏其の湯の功驗を知り藥湯業を行ふ又希望者には該藥を分配するの特許ありと聞く
同湯待遇は懇篤にして奢侈に流れず極めて質素と輕便とを以て專一と爲し年來の高評を博する所にして北海道には此種の藥湯數少なく且特效あるを以て名高し

鱒澗町

山本商店

(山本幸太郎氏)

山本商店は鱒澗町五十二番地(臺町に昇る海手の方)に在り商號を『余』と云ふ吳服太物類を嚮き御召一樂風通縮緬斜子紬木綿縞雙子瓦斯絲入子ルメン子ル等品質を精撰して低廉に販賣するより評判宜く區内遠近の顧客は多く同店に出入し其他大津帶廣根室地方より同店を指して來集せり斯の如く日を逐ふて盛大に赴き今は區内有數の吳服店なり

函館案内

風間靈泉館

風間靈泉館は鱒澗町二十九番地にあり鐵冷鐵泉を販賣す
鐵冷鐵泉は肥前國小城郡多久村宮浦山仁田に涌出する鐵泉にして同館は北海道特約販賣店なり其効能の顯著なる他に比するものなし
効能 皮膚病、子宮病、運動器病、神經痛
其他の諸病によし

富岡町

函館毎日新聞社

(寫眞版参照)

同社は初め内澗町一番地に置き明治十一年一

有名なる商店の案内


月七日毎五日隔定刊にて函館新聞初號發兌す當時社主渡邊勇四郎氏印刷人伊藤鑄之助氏なり

同七月二日より隔日と改たむ、十二年十二月の大火に延焼に罹り一時地藏町馬車會社内に移て發兌す、十三年五月十日富岡町五番地(現今の箇所)に本社の新築成り移る後ち渡邊氏社主を罷め伊藤氏社を引受く廿年より日刊と改め二十二年中より大に紙面を擴め體裁を改たむ三十一年社を伊藤力松氏に譲り本社を改築し再び紙面の改良を圖り題號を函館毎日新聞と改む其論說記事の確なること講談小説の快なること經濟商況の精なること電報探訪の敏なること發行紙數の多きこと信用のあること

と東京以北第一位なりと聞けり
同社は傍ら活版石版製本の業を兼ね其精巧麗
美鮮明なるは是れ又東京以北に於て伉儷する
ものなしと聞く盛なる哉

○齋藤商店

(齋藤伊藏氏)

齋藤商店は富岡町八番地にあり商號を「」と
稱呼し合資會社メリヤス商會の製造に係るめ
りやずを一手販賣し當港著名の商店なり
同店はめりやず類を蒐集し必ず舊習に泥まざ
る様注意し嶄新なる流行品を撰で來客の好に
應ずるを勉むるが故に廉價と勉強とは常に他
店の一籌を輸する所にして益繁昌の景況を見

るは同店の將來に於ける盛況を下するに足る
べく誠に同店の爲に喜ばしき事と云ふべし

會所町

○井上銃砲店

(寫眞版參照)
(井上嘉助氏)

井上銃砲店は會所町五十七番地に在り其營業
は銃砲火藥等にして中々勉強の店なり而して
其販賣の銃器はよく新式の堅牢なる命中の正
確なると價格の低廉なるとは大に愛銃家の賞
賛を博し地方顧客の信用日を追ふて盛なり其
種類は左の如し
英國製新式二連獵銃

- 英國製新式無鷄頭二連獵銃
- 同 施條入新式二連獵銃
- 同 雁鴨討二連及單身銃
- 同 新式單身獵銃
- 同 新式ステッキ銃
- 佛國製新式三連獵銃
- 同 新式無鷄頭二連獵銃
- 同 同 上下二孔單身銃
- 同 同 七眼獵銃
- 米國製六連雁鴨討獵銃
- 同 新式單身安全獵銃
- 同 猛獸討十五連發獵銃
- 同 單發連發射的銃類
- 同 少年用單發連發空氣銃

有名なる商店の案内

- 內國製村田式獵銃
- 同 名譽安全村田獵銃
- 同 安全クリーナ式
- 同 安全速射獵銃
- 同 改良杖銃及傘銃
- 工事用ダイナマイト類
- 同 坑山用火藥及導火線類
- 其他附屬品各種

○松岡印判彫刻所

同店は會所町四十番地に在り印版彫刻を以て
業とす本港同業者中第一流の有名なる店なり

○田本寫眞館

田本寫眞館は會所町に在り本港著名の寫眞館なり
同館は開業以來茲に三十四年一時は多數の同業者を出して之が競争の渦中に立ちしも常に優勝の地にありて益々修練の功を積み遂に能く他を制して今日の成功を見ることを得たり
館主田本研造氏特に技術に長じ更に非常の熱心家なり然れば眼鏡器械の如きも大小數種の準備ありて小は手札形より大は全紙形に至る迄撮影自在にして不變色は其特色なり故に紳士令嬢美人を通じて多く同館に出入するを例とせり盛なる哉

因に誌す 同館にては寫眞銅版及び寫眞硝子膠版の製版印刷をも爲す是れ本道に於ける斯業の嚆矢なりとす

○土谷商店

會所町三十四番地に在り商號は「三ツ輪」なり營業は雜貨商にして其重なるもの洋酒雜貨荒物雜穀地玉子等を販賣す同店は能く客に親切に叮嚀なるため汎く區内に得意を有せり

○小出和洋洗濯所

小出和洋洗濯所は會所町五十一番地に在り和

洋洗濯を以て業と爲す

同店主小出龍太郎氏はよく期日正確迅速勉強を本旨とせるため大に依頼者の信用を受け店頭屋上共に張り詰め日々繁昌し居るなり

○東洋堂菓子老舗

東洋堂は會所町五十三番地に在り食麵麩洋式菓子及び麵麩菓子を卸賣業とし菓子老舗の名高し明治二十八年七月第四回内國勸業博覽會に洋式菓子を出品して有功三等賞を受く本區各地に無數の取次販賣店を有する確實なる菓子老舗なりとす

○福井旅館

(寫眞版参照)

丸大旅館は會所町十二番地にあり本港第二流の旅館にして丸大は通稱なり
本館は本港の中央なる八幡坂の中程にあるを以て巴港數千の船舶を眼前に控ひ風景絶佳加ふるに室内清潔なると器具の整備せると待遇の親切なるとは同館の特色なりとして世人の稱賛する處なり

女將は温和なる美人にして能く世道に通曉し益々營業を擴張し遠らず改築するとの計畫なりと聞く今や函樽鐵道の布設ならんとの期に際し斯業の爲め賀すべし同館は明治二十七年の開業なれども其位置が郵便電信局警察署諸

銀行各商店の附近にあるを以て旅客の便利少からず爲に日々の繁昌推して知るべし

○葛谷銃砲店

(寫眞版参照 葛谷喜四郎氏)

近年銃獵の流行に連れ銃砲製作上に變革を來し英國製と云ひ米國製と稱へ互に競ふて精功を凝らし流行を作り嗜好を惹き或は優美高尚に或は瀟洒風流に幾多精巧美妙堅牢の製造を爲すに至りたり故に優等品より扱は實用專一の堅牢品に到る迄其品種の幾百なるを知らずと雖とも悉く之れを具備して以て愛銃家不時の需に應ず其規模大にして業務の隆盛なる販路の廣大なる北海道の銃砲店として嶄然と頭

角を顯したるものは當港葛谷銃砲店なりとす同店は會所町三十五番地にある宏壯なる二層樓の土藏造にして其商品の豊富なると品質堅牢低廉勉強販賣は同店の主眼なりとの高評を博せり其重なる商品は左の如し

- 英國製新式二連獵銃
- 同 新式無鷄頭二連獵銃
- 同 施條入新式二連獵銃
- 同 雁鴨討二連及單身銃
- 同 新式單身獵銃
- 同 新式ステッキ銃
- 佛國製新式三連獵銃
- 同 新式無鷄頭二連獵銃
- 同 同 上下二孔單身銃

○並木製靴店

並木製靴店は日和坂會所町の右角にあり同店は本港に製靴業を營むこと十有八年にして日を追ひ益々隆盛に赴くは需用者の愛顧に依るとは云ふものゝ原因なくして叶はざるもの其原因とは

- 技術の精巧 熟練なる職工
- 價格の低廉

以上の三要素は同店今日までの隆盛を繼續せるものなり

而して同店は明治三十四年四月製靴便覽なるものを印刷して遠近の華客に頒てり斯業のため熱心勉強なることは他店の遠く及ばざる處

- 佛國製新式七眼獵銃
- 米國製六連雁鴨討獵銃
- 同 新式單身安全獵銃
- 同 猛獸討十五連發獵銃
- 同 單發連發射的銃類
- 同 少年用單發連發空氣銃
- 內國製村田式獵銃
- 同 名譽安全村田獵銃
- 同 安全クリーナ式
- 同 安全速射獵銃
- 同 改良杖銃及傘銃
- 工事用ダイナマイト類
- 同 坑山用火藥及導火線類
- 其他 附屬品各種

有名なる商店の案内

會所町

なり本書掲ぐる處の寫真版は其一部を模寫せるものなり

故に同店の信用厚く顧客常に店頭に満ちて混雑を極め居れり

靴使用及手入方

これは製靴便覽に記せるものにして一讀の價値あるべし参考のため茲に掲ぐ

一靴は常に濕潤の土間に置くことを忌むべし

一靴は火邊に近づくべからず

一靴は泥土の付着したるときは直に淡水にて洗滌し稍乾きたるとき油を布き其吸取を待

て靴墨を塗るべし

一靴は靴墨を塗りたる後(ブラシ)にて摩擦して光澤を生ぜしむるものなるも其光澤が指

1011

頭に觸るゝも光を失はざるまで摩擦するものとする

一靴は時々油を布くことを怠るべからずされば革の剛くなる憂なし(油は魚油の種類に限る)

一靴は其製造したる店舗をして修繕せしむべし然らざれば不完全なる修繕に終るべし

一靴は其修繕に鐵針を用ゆるは宜しからず早く朽る憂あり

一靴は其親指の底革損したるときは速に修繕するを善しとす然らざれば其恰好を損するものなり

○日新堂

天下の有ゆる新聞雜誌を逸早く輸入して區内は勿論北海全道の顧客を満足せしめ其配達の神速なること電信の如し店主は井上政吉翁にして新聞雜誌の間屋として大勉強の評判高し營業所は相生町六番地なりとす

○丸北分店

丸北分店は相生町十五番地にあり惠比須町丸北の分店なり
同店の生蕎麥は逢街一體及進入軍往復の兵糧に充てられ日々繁昌し居れり

相生町

○浪月堂

(龜岡和氣次郎氏)

浪月堂は相生町堀川學校の隣にあり古本賣買を業とす

同店は傲倨沈黙是本領、注意店則ひやかし三十分限り、と標榜し到て無遠慮無愛嬌なるものゝ如し然れども學術的に關する教科書乃至中等教育的參考書及小説雜誌等を網羅して遺憾なからしめ以て價格を廉にせり故に信用厚く店頭何時も顧客を以て充さる是れ區内古本商の巨擘なり

有名なる商店の案内

1013

相生町

○きかもじや

(鈴村儀之助氏)

丸きかもじやは相生町十六番地に在り商號は「丸き」なりかもじ製造を以て其名高く注文遠近より來り日々繁昌し居るなり

○中燒麩製造所

(中川武右衛門氏)

丸中燒麩製造所は相生町十八番地にあり其營業は燒麩生麩を製造販賣し傍ら越後白米砂糖の卸小賣を爲す
燒麩は區内及遠近の漁場へ輸出し販路尤も廣し越後白米は評判よく區内の需用者に販賣す
同店の商號は丸中にして信用ある確實勉強な

る商店なり

○石塚材木店

石塚商店は相生町六十二番地に在り商號は「東」と(東は草書にて用ふ)稱呼し材木の卸小賣を爲し傍ら土木建築の請負を爲す
同店は材木の豊富なる當港同業者中の屈指たり土木建築工事の請負は手廣くして全道に及ぼす勉強と低廉なるとは同店が受くる世評なり

○源商店

丸源商店は酒類製造を營業し最も確實の商店にして相生町五十六番地にあり

○夕印津田商店

(寫眞版参照)

夕印津田商店は相生町五十八番地に在り夕印は商號にして函館要塞砲兵大隊兵器支廠築城部及諸官衙の御用請負を業とす
同店は多年斯業に従事し確實を以て主義とするが故に公私共に信用を博し居れり特に同店主津田昌氏夙に慧敏の聞あり時勢の變遷に隨て益々斯業上の改善を講じあるを以て業務

有名なる商店の案内

の進歩は一頭地を顯出し現今區内幾多の同業者ありと雖も同店に匹敵する者を見出す能はざるなり

○精養軒

(寫眞版参照)

精養軒は上等菓子商の内當港屈指のものにして老舗なり相生町百一番地にあり常に斯業の進歩を計り風味の優等なるを以て他を凌かんとし其製法の上品なる風味の高尙なる容易にその比類を求め難し就中優等天狗ビスケットに至りては同店の最も得意とする處にして舶來品も三舍を避くべく其製造する所はカステラ、西洋菓子類各種ビスケット等なり

相生町 大黒町

一〇六

主人杉村米藏氏日夕意を改良に用ひ今や罐詰類の製法を攻究し製造所を設け盛に之れを行ひつゝあり(製造所の寫眞参照せられたし) 同店は共進會や博覽會等の品評會に自製の菓子を出品して賞状を得たること枚擧するに遑あらず

同店は華客に對し丁寧と親切なると製品の風味優美なるを以て頗る評判宜し

○丸大餅屋

丸大餅屋は相生町十七番地にあり柏餅元祖を以て名高し近來鏡餅搗直しはつめいの事を發明して益々好評を博し居れり

大黒町

○北海朝日新聞社 (寫眞版参照)

同社は大黒町五十五番地にあり新聞業と活版印刷業とを兼ね 同社發行の北海朝日新聞は北海全道中唯一の無休刊新聞にして誕生日淺しと雖も健在に發育して世に獨立獨歩 議論公平 趣味饒多 商況確實 報導迅速なりとの好評を博せり 社主川上嘉吉氏は漸進堂と號し活版印刷の業に富み年來頗る聲名を博す却て號名の漸進堂なるものは人口に膾炙する處なり特に熟練な

る職工ある爲め意匠嶄新、印刷鮮明なるは最も長ずる所にして區内幾多の商店の印刷物は一に同社によるものゝ如し 同社は勉強と眞實を旨とするが故に信用益々厚きを加へ日一日に隆盛の域に進みつゝあるなり

○桐屋第二支店 (上田雅吉氏)

大黒町八十三番地にあり末廣町桐屋商店の第二支店なり傘履物其他諸紙煙草類を販賣し廉價と親切は同店の得意にして世評よく界限は同店より皆需む商號は「釜」なり

丸北山崎そばは、大黒町五十一番地に在り御膳きそばを以て有名なり特に蘭切白蘭黃蘭五色黃上籠並に橋玉小田巻おくだまきは同店の特長なりとの好評なり

○成田商店

同店は大黒町百一番地にあり和洋酒類卸小賣を以て廣く花客の知る處にして店主の懇切營業の勉強は世の信用を受く商號は「金上」にして其名著るし

有名なる商店の案内

一〇七